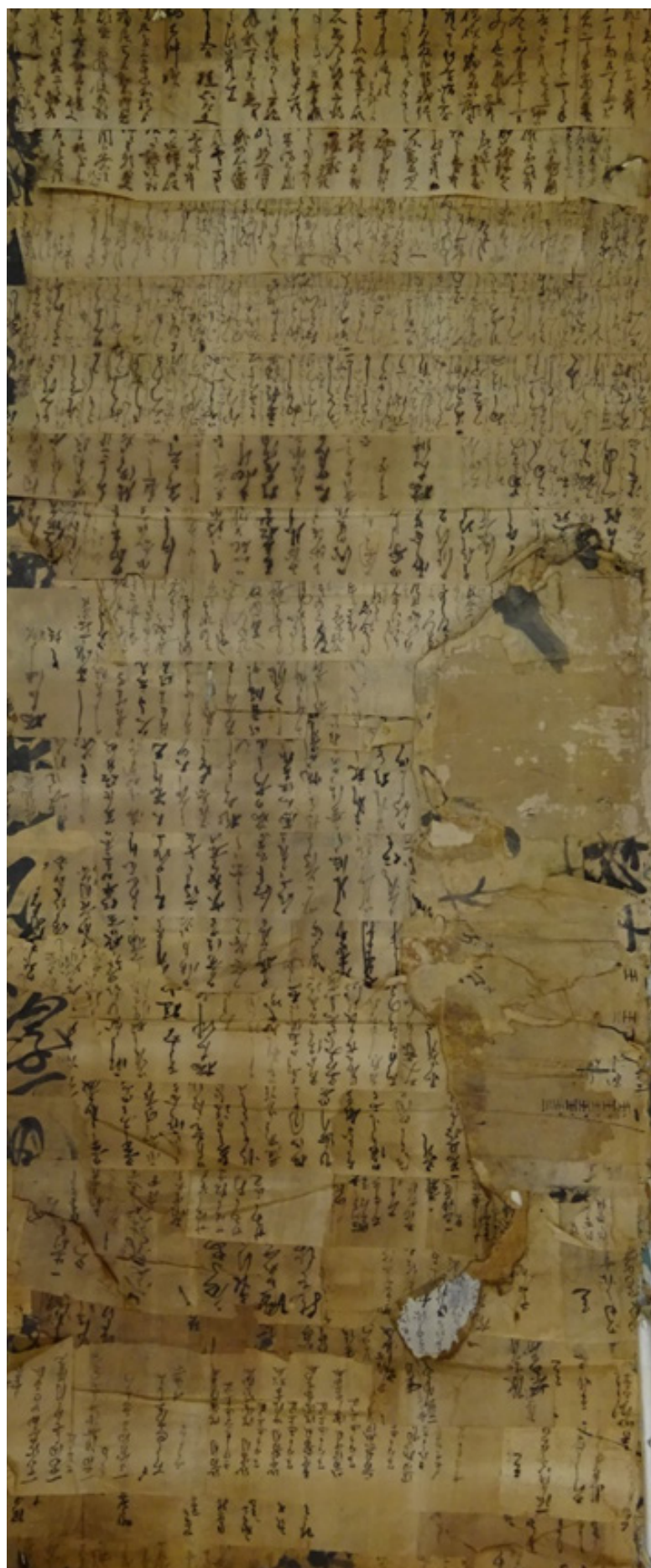


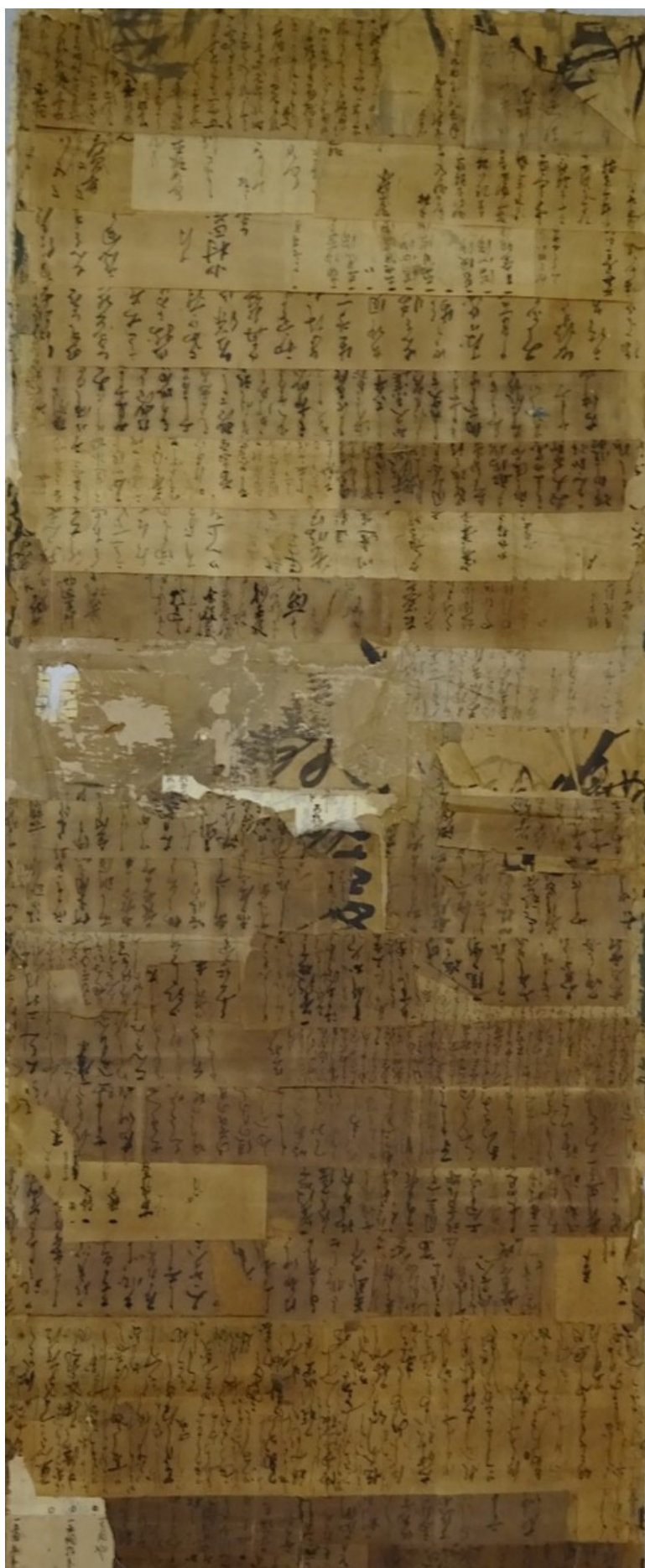
二〇二四年三月

旧永瀬家住宅襖下張り文書目録

岡山大学文明動態学研究所



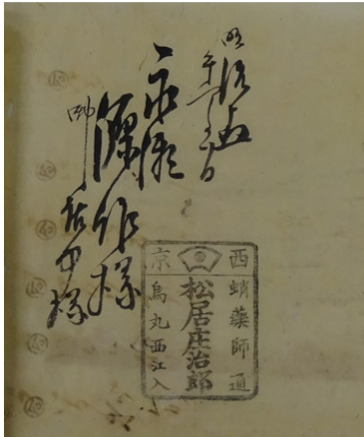
1面 表面



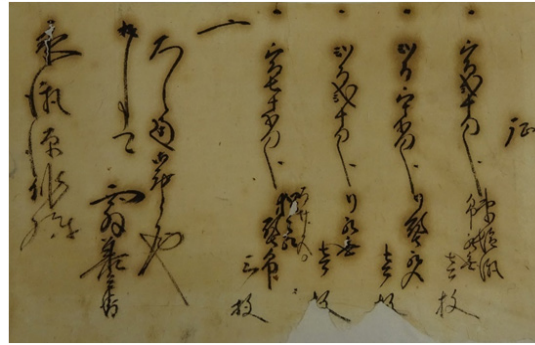
2面表面



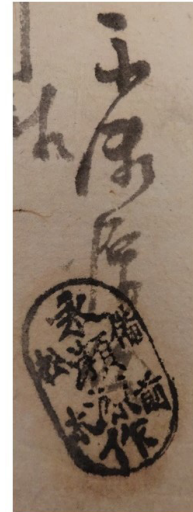
1 面 上段と下段の間の反故紙



松居庄治郎



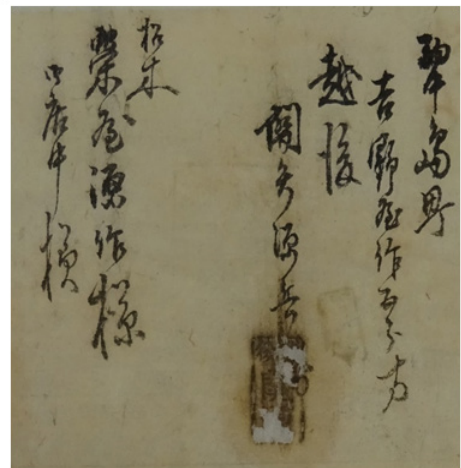
西羽善兵衛



永瀬源作の署名捺印



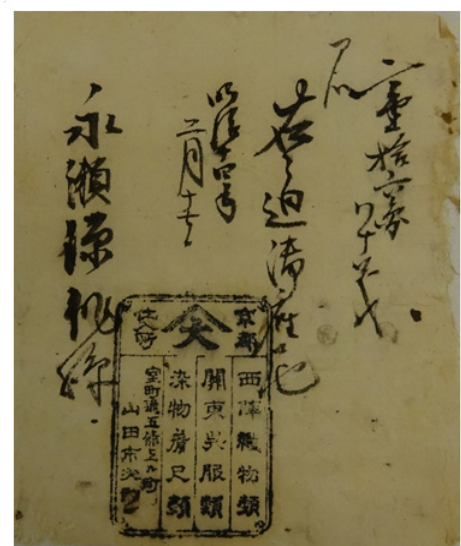
山岸佐兵衛



関矢源兵衛



山田定七



山田市次郎

旧永瀬家住宅の襖の下張り文書について

非常勤研究員 内池 昭子

はじめに

今回とりあげた襖の下張り文書は、赤磐市松木六九一に所在する旧永瀬家住宅から発見されたものである。この建物は木造二階建ての鉄板葺で一部瓦葺、建築面積八七平方メートルで、主屋と井戸は平成二九年（二〇一七）に国の登録有形文化財に登録された。これらの建造物は登録時の調査では、永瀬清子の祖父源作が明治前期に建てたものとされる。令和二年（二〇二〇）十一月、この永瀬家の襖の下張りが、NPO法人永瀬清子生家保存会から岡山史料ネットへ寄贈された。受け入れた際には、すでに襖の骨組みから外されていて、襖の下張り八面が重ねて丸められた状態であった。文明動態学研究所の作業としては、一面ずつに貼られている文書をはがしていつて、裏打ちが必要だと思われるものには裏打ちを施して、一枚ずつ写真をとった後に一点ごとに目録を作成していった。断簡・断片の状態のものが非常に多く、史料総点数は八六四点となった。

まず、詩人として知られる永瀬清子と永瀬家について説明しておこう。永瀬清子は一九〇六年（明治三九）に岡山県赤磐郡豊田村（現、赤磐市熊山町）松木で生まれ、一九九五年（平成七）に岡山市で他界した。詩集『グレンデルの母親』をはじめ数々の詩を残し、岡山家庭裁判所調停委員・世界連邦都市岡山県協議会事務局長代理などの社会活動も行った。清子が生まれた永瀬家について、井久保伊登子著『女性史の中の永瀬清子』〔戦前・戦中篇』（二〇〇七年、ドメス出版）から引用すると、明治の初め頃、岡山県赤磐郡豊田村（現、赤磐市熊山町）に大永瀬と呼ばれた西の本家と、そこから分家した東の本家があった。西の本家は、元名主の八十二が娘に婿養子をとって信太が当主となっていた。信太は、清子の母方の祖父である。信太は、初代松木村戸長（村長）をつとめ、戸長を辞任の後は自由民権結社「相愛社」を結成して地域の啓蒙につとめ、その後、県議会議員の任に就いた。

東の本家は長男の四郎三が家督相続し、次男の源作は分家した。源作は清子の父方の祖父である。源作は商人の道を選び、反物を手代にかつがせ、中国山脈を越えて、山陰地方の得意先をまわって商売をした。商いで成功し、商いで得た現金で次々に田を買って私有地を広げ、源作が遺した土地は四〇町歩もあった。しかし、明治一九年（一八八六）、コレラが県下に蔓延し、商用で岡山に行った源作は、帰り道に立ち寄った峠の茶屋でコレラに感染して他界した。

本稿では、この襖の下張りをはがしをどのようにおこなったかを紹介し、その後に、はがした文書を史料分析した結果についても紹介する。

一 襖の下張りをはがし

1 襖下張りの構造

襖の下張りは全部で八面存在した。それぞれの下張りはいずれも上段と下段にわかれ、上半分の文書群と下半分の文書群が反故紙で分離された状態であった。下段には、主として永瀬家に関係する古文書が貼られており、襖を仕立てる際に、永瀬家にあった反故となった古文書をかき集めて貼り付けたものと考えられる。しかし、それでは足りず、不足の分は永瀬家以外の別の場所から入手して上段に貼り付けたものと推測される。そのため、上段と下段の文書群は、まったく無関係の文書が貼り付いていたことになる。また、それぞれについてみると、書状・証文・覚など完全な形で残されたものもあるが、破れて欠損するなどして断簡の状態のものがとても多い。大福帳なども帳外れとなった一紙状態のものもあるが破損や傷みがはげしく、多くはわずかな断片の状態が残っていた。

これらをはがした後、文書に番号を付与するにあたっては、襖の下張りは全部で八面あったので親番号として1～8を付け、それぞれの面について上段に貼り付いていたものを子番号1、下段に張り付いていたものを子番号2と付け、そして個々の文書に対して孫番号を付与していった。例えば、最初の一面の上段にある一点目を「1-1」、二面の下段の一点目を「1-2」とした。

骨組みから外された襖の下張りの表面の状態は前掲の写真（1面・2面）のようなものであった。それ以外の3～8の表面もほぼこれらと同様な状態であった。すなわち、表面が日焼けをして酸化した状態であり劣化・損傷が著しかった。

2 下張り文書の剥離

下張り剥離の前に、まず表面全体の写真をとった後に分割撮影をおこなった。そして、一層はがすごとに分轄撮影を繰り返した。これらをはがしていく場合に、先行研究によれば、貼りついたままの文書にそれぞれ番号を付与してから剥離する方法を提示されたものがある。しかし、今回の場合は表面の損傷が大きなものや、日焼けして酸化しているものが多くてはがすのに困難を要した。そこで、最初から文書番号を付与することは難しいと考えて、それぞれの面において上段の文書がすべてはがれた後に番号を付し、下段の文書がすべてはがれた後にまた番号を付与した。上段は一〜二層、書状などの鑑張りであり、下段は二〜三層、上層は鑑張り、最下層は和綴じ本や大福帳の断簡などの紙を広げて敷き詰めて格子状に貼っていた。

この襖の下張りの上段はどの面も日焼けして酸化していたため、最初から剥離の困難さがあつた。さらに、いくらかの面の下段には和紙だけでなく、洋紙など脆弱な紙が貼り付いている場合があり、さらにこれも剥離を困難なものとした。こうした紙をはがす場合に試みたことを以下に紹介してみたい。

(1) 日焼けした和紙

日焼けして酸化した和紙をはがす方法を以下に二つ挙げてみた。

① 裏打ち

日焼けして酸化した文書は手で触ただけですぐに剥落してしまうものや、それほど傷みがはげしくない状態の文書でも作業中に破損してしまうことがある。そこで、裏打ちをしてから取り出す方法を考えた。襖の下張り上段の文書は鑑張りであり、糊付けされた部分はすぐ下の反故紙に貼り付いていた。糊付けされず浮いている文書の裏面に、生麩糊を塗った裏打ち紙を貼りつけた。もし糊を貼り損ねた場合に貼りつけた文書を動かせば、手で押さえただけで文書の断片が指に付着することがある。さらに、本来は刷毛などで貼りつけた文書と裏打ち紙のすき間にできた空気を抜く必要があるが、文書に触ることが困難な状態なので、霧吹きで均一に水をかけることで文書の皺を少しは伸ばすことができた。

この作業では、裏打ちの糊がすぐ下の文書に貼りつくのを防ぐため、その間に新聞紙やクリアファイルなどを挟んでおいた。また、日焼けした文書が貼り付いていた紙は史料価値のない反故紙であつたので、反故紙から切り抜くことで取り出したことは極めて好都合であつた。しかし、適度な糊の濃度がわからなかったために紙にかな

りの皺ができて、乾燥して固くなることもあり、そうした場合には、完全に乾いた後にもう一度水で霧吹きをしておけば、少しは良好な状態になった。

② 表打ち

まず、糊付けがなく浮いた状態の文書の下にクリアファイル(新聞紙など)を敷く(図1、糊付けしたときに下の古文書に糊が浸透しないために)。次に、クリアファイルと文書の間に不織布を挟み、さらに文書が貼り付いている反故紙の下に新聞紙を敷いておく。そして、文書の上に典具帖紙をかぶせて、CMC糊を霧吹きで文書全体に吹きかける(図2)。このとき典具帖紙の大きさは、文書よりひとまわり大きいぐらいに切る。さらに、そのうえに不織布をおいて刷毛で空気を抜く(図3)。しばらく乾燥させてから、文書が反故紙に貼り付いている境目をはさみで切り出す(図4)。

以上のような方法を考えてみたが、どのようにするのがもっとも望ましいのであろうか。あまりにも酸化して損傷が著しい場合は形状を保つことができないため、ときには文書がつかつたままの状態で大きめの封筒に入れたこともあり、またSILテツシュで包んで保存する方法をとったこともあつた。そのときに、はがす前の状態の写真をとっておくことが大切である。裏打ちや表打ちが必ずしも必要とはいえないが、一点この文書をできるだけ良好な状態で保存したいと考えた場合には、こうした方法もあるのではないだろうか。裏打ちや文書を少し裏返す必要があるので作業がしづらく、表打ちの方がやり易い。しかし、表打ちをする際に使う典具帖紙は少し高価なものなので、予算の面を考慮する必要があるであろう。

(2) 剥離の困難な紙

手掛けた下張りの中に、とくに下段には、はがすのが困難な紙がいくらかあつた。その種類を以下に挙げてみると、

(ア) 日焼けのような黄土色の紙(下張りの表面にあつたものではない)

水に弱く剥離が困難で、他の箇所をはがしていると気づかないうちに剥落する。

(イ) 水をかけると透ける洋紙

水をかけただけで紙が透けて紙の存在がわからなくなり、紙が非常に弱い。

(ウ) ねずみ色の和紙(薄墨紙カ)

紙自体は少し強度がありそうだが、糊付けの箇所がはがれない。

(エ) 色つきの和紙

紙の強度が少し弱い。

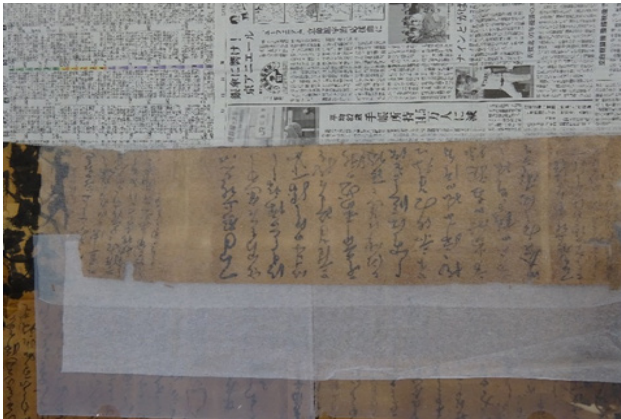


図 2

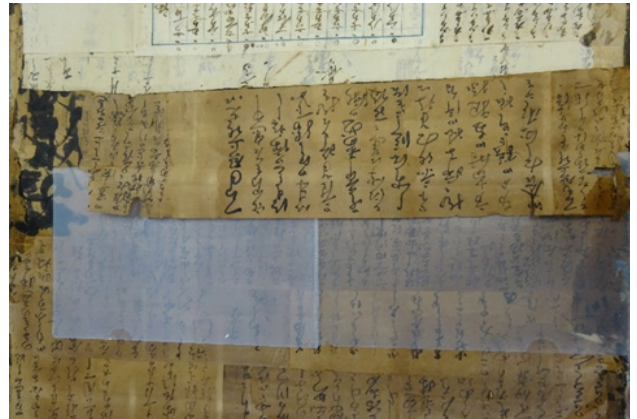


図 1

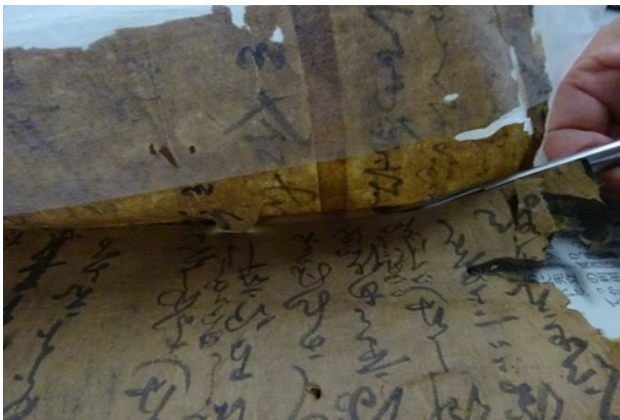


図 4



図 3

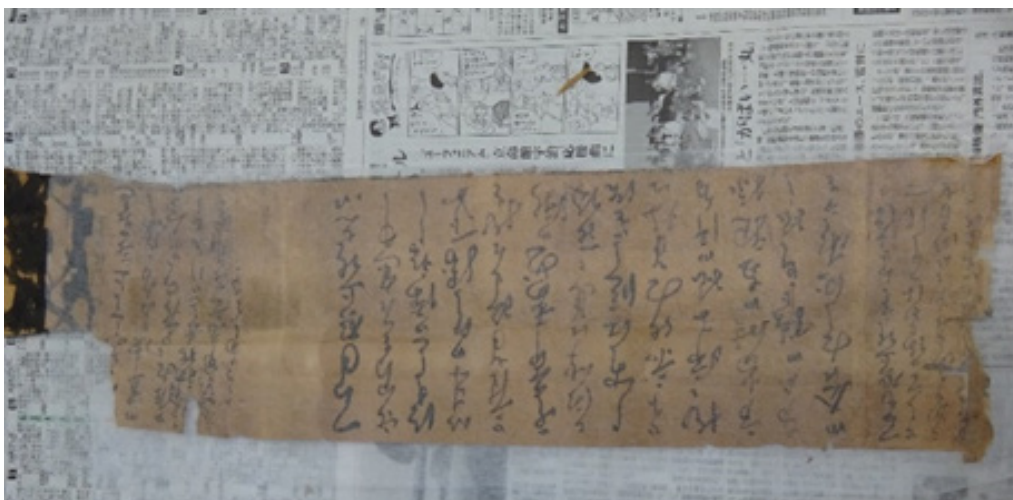


図 5 切り出した状態

これらの紙を剥離するには水ではがすことができず、いろいろと調べてみると、無水エタノールを使用する方法を見つけた。そこで、無水エタノールを希釈して試してみたが、通常の和紙で剥離が少し困難なものであれば有効なのだが、こうした紙には難しいようであった。また、アイロンではがすやり方や、文書の上に不織布をおいて水で湿らせてから、文書を不織布で捲き込んでいくやり方などで試してもやはり難しいようであった。そこで、はがす前に文書の写真撮影をしてから遣り損なった場合に備える必要があるだろう。あるいははじめからはがすのを断念して、文書がつかったままコンパクトな状態で取り出す方法を選択する方が賢明かもしれない。しかし今回取り扱った下張りの下段は、上層が鎧張りで、下層が紙を広げて格子状に貼り付けてあったために、上と下の貼り方の違いからコンパクトに取り出すことがとても難しかったように思う。

3 水に浸けてはがす試み

上段の下張りについては表面が日焼けして酸化していたため、水に浸してはがすことは不可能であった。そこで、洋紙や脆弱な紙がなくて和紙ばかりであることを確認できた下段の下張りで試してみることにした。最下層部の貼り方は糊しろの部分が高く、きれいにはがすためには水に浸けた方が順調にはがれるのではないかと推測した。襖大の下張りが入るような大きな容器がないため、身近にある適当な大きさの容器に水を入れて試してみた。下張りの上層部と下層部の貼り方が違うためにコンパクトな大きさにすることが難しく、軽くなったんで浸けることにした。三〇分ぐらいではがれる部分も出てきたが、しばらく経って水から引き揚げたところ下張りは団子状になり、いわば「水損史料」である。たいへん慌てたが、糊が貼り付いていた箇所は容易に剥がれていき、新聞紙に文書を広げると問題のない状態であった。しかし、薄い紙はうまくはがれないようである。

これとは別におこなった水に浸けた実験で、一回目は二時間（水温二二〜二二℃）ではがれ、二回目では五時間（水温約一四・五℃）かかった。この違いは水温の差によるもので、水温が三〜四℃ぐらいであれば約一時間、四〜五℃ぐらいであれば約三〇分ではがれるようである。しかし、これも糊の粘着力との関係もあるので一概にはいえないであろう。今回は、折りたたんで水に浸けたために団子状になり、作業を困難にってしまった。やはり、広げた状態で水に浸けた方が賢明である。

二 襖の下張り文書の分析

1 (襖の下張り下段) 永瀬家関係の古文書について
この襖の下張りが永瀬家にあったもので、先に下段の永瀬家関係の史料についてみていきたい。

(1) 永瀬源作の商売について

① 商売をはじめた時期

源作の商売開始の時期はいつ頃であろうか。手掛かりとなる史料(一〜二七)は、大福帳の帳外れで破損が著しいが、「明治五壬申正月初^(行)初」と記されており、源作は明治五年(一八七二)から商売をはじめた可能性が考えられる。襖全体の年代からしても、明治五年が一番古い。江戸時代は、自らが居住する村を越えて移動することには制約があり、明治になってより自由な移動が可能になったと考えられるので、明治五年は、源作が山陰地方を巡回するような商売をはじめるとは妥当な年代ではないかと推測されるのである。

② 京都での商売

史料をみていくと、源作は反物を京都や越後の呉服店から仕入れていたことがわかる。源作は、京都で仕入れをする際に、京売り(登り売り)をしていたようだ。明治八年(一八七五)二月二日の「京売」(五〜二六)では、広博田^(多)筑前一本九五〇匁など、辰年二月の「登り」(八〜二五)では、上州小倉^(多)二両三歩一朱、岸上物一丈五〇二歩など、年末詳七月の「登り売」(八〜二六)では、金巾五両二歩三朱、嶋^(編)八丈一丈五両二歩二朱ト六百文などがみえる。

源作が京都での取引先は「京都・越後等取引先一覧」という表1に示した。これらの店は「仕入」の店か「売先」の店か、あるいは両方を兼ねている場合もあるかと思われるのだが、厳密に区別することは難しい。京都には「西陣織物帯地類仕入所」「呉服夏物仕入所」「嫁入小袖仕入所」などの店がある。源作は、京都でかなりの数の呉服店を廻っていたようだが、三井のような大きな店はみあたらない。また、領収書や仕切書は源作宛なのだが、源作が「源之助」^(④)となっている場合もかなりみられるので、「源之助」を名乗っていた時期もあったのだろうか。残存した史料の中で、最も取引が多かったのは西羽善兵衛で、西陣・縮緬・信州紬などを仕入れていたようである。次に取引が多いのは、蛸薬師烏丸西江入に店を構える松居庄治郎である。古いもので

明治一〇年（一八七七）の仕切書があり、明治一四年（一八八一）・一五年（一八八二）のものが多く、主な仕入物は秩父・郡内・金山・奈良晒などであった。

京都の呉服店ばかりではなく、越後の柏崎にある店との取引もみられる。明治一四・一五年頃、関矢源兵衛・金子桂吉や山岸佐兵衛などの店と取引があった。関矢源兵衛の場合は、岡山の西中島町吉野屋作五郎方へ源兵衛が来ており、そこで取引が行われたようである（2-2-30）。そのため、越後の呉服店と取引があるものの、源作が実際に越後柏崎まで足を運んでいたかどうかまではわからない。この点については、検討の余地がある。

さらに、竹田幾太郎の店は「越後縮結城関東呉服物おろし」、山田定七の店は「関東呉服仕入所」、山田市次郎の店は「西洋織物類 関東呉服類」と看板を掲げている。源作は東京へ仕入に行かなくても、関東辺りが産地の反物を京都で仕入れることができ、また洋服の生地も仕入れていた。いわば源作は、当時、日本で最も流行していた生地を仕入れていたことになる。

③ 輸送のルート

京都で仕入れた反物をどのようにして運んだのであろうか。京都の不明門に店を構えていた入江吉兵衛が、永瀬様御兩人（源作・常八）に宛てた宿泊代や荷物・汽車賃など受取覚（2-2-26）がある。当時、汽車といえば、大阪と京都間は明治一〇年（一八七七）に開通しているので、京都から大阪まで源作は二人で荷物を持って汽車に乗って運んだと推測される。

次に、大阪の大川町にある汽船取扱所の河田支店が源作へ宛てた運賃請取覚（2-2-25）によれば、「唐（カ）櫃四個也 右小串上り賃八拾八錢也」と記され、反物などの荷物を櫃に入れて、大阪から小串まで汽船で向かったことがわかる。小串は岡山を流れる吉井川の河口に位置し、そこから吉井川を登っていき、源作の居住地である熊山の松木まで帰ったと推測される。また、河田本店は岡山にあるようで（2-2-32）、岡山の汽船会社が岡山と大阪の運輸をおこなっていたようだ。大阪の大川町には荷物取扱所の多田徳などもみえる（1-2-37）。

また、西大寺に店を構える酒屋勝之甫が、河田坂口屋・松木栄屋源作・万屋兵吉へ宛てた、□皮籠四個・黒布包壹個など、荷物七個、福島よりの船賃を書き付けた覚（前欠、3-2-28）がある。福島は旭川の河口にあたるので、岡山からの荷物を福島で船積みして、吉井川の河口にある西大寺へ運送しており、一度に数人の荷物を乗せて

いたことがわかる。この西大寺から吉井川を舟に乗って熊山の松木へ帰ったと推測される。

④ 商品の売り先、取引先

源作は、京都から仕入れた反物をどこへ売りに行っていたのであろうか。地図Aに示してみた。

a 岡山

まず、大福帳の断簡であると推測されるが、「岡山売分」と記される史料がある（1-2-75）。売物は、千年嶋（千年杉染大島紬カ）一貫三〇〇匁、黒五日市（黒八丈）六二五匁、花色秩父三〇六匁などで、岡山ではとても珍しい反物であったと思われる。これらの品物は京都で入手したものであり、岡山の呉服店へ売ったものであろうか。また、先に紹介したが、越後の関矢源兵衛が岡山の西中島町吉野屋作五郎方へ来ており、そこで取引がおこなわれ仕入れがなされている場合もある。岡山も商売の重要な取引場所であった。

b 山陰方面

井久保氏の著書の中でも、源作は反物を手代にかつがせ、中国山脈を越えて、山陰地方の得意先をまわって商売をしたことが記されている。そこで、岡山から中国山脈を越えて山陰地方へ行くルートが想像できるのだが、残存史料からは、山陰方面へは大阪から向かっていたことがわかる（1-2-33）。同史料には、大阪↓米子・坪江（鳥取県米子市）↓堺湊（鳥取県境港市）のルートが読み取れる。さらに、永瀬常八の書状（宛名は「永瀬様」）からは、米子↓堺湊↓美保関（鳥根県松江市）↓トノエ（外江）村（境港市）↓米子・坪江のルートがみられ（2-2-23）、「兩人共二無事二暮し居申」とあり、二人で行動していることがわかる。常八以外のもう一人とは、やはり源作のことであろうか。そうであれば、手代が常八ということになる。

しかし、常八の別の書状（1-2-26）では、「兄上様より上京の砌二西京より書面米子へ着仕」とあり、宛名は「永瀬様」なのだが、これらの文書群が源作の家に残されたものなので、源作の家族へ宛てたものと考えたならば、兄上様は「源作」であると考えられることもできる。この場合は、源作と常八が別々に行動していて、両者が兄弟関係にあったと推測できることになる。しかし、実際のところはよくわからない。

c 津山方面

大福帳の断簡（1-2-82）に、「日上三日市あふ屋⁽⁷⁾一反四円二十銭、近長鳥越

白染五尺 四十五銭」がみえ、日上のあふ屋へ反物一反を四円二〇銭で売り、近長の鳥越氏へ白染の反物五尺を四五銭で売ったことがわかる。日上・近長ともに津山市の地名である。津山の辺りへ売りに行っていたことがわかるのだが、どのようなルートだったのだろうか。史料の中に橋本屋から米屋へ宛てた記(6-2-38)があり、津山より駄賃一二銭とある。橋本屋がどこにあった店かはわからない。また一方で、史料(1-2-3)の書状には、金川の武藤氏へ立ち寄るとあり、立ち寄るということはどこかへいくついでに立ち寄ったということだと考えられるので、金川は津山へ行く途中にあり、岡山から金川を通り津山に至るルートが考えられる。そうすると、橋本屋は岡山にある店なのかもしれない。あるいは、津山方面へは美作の方から入って行った可能性も考えられる。

d 美作

大福帳の断簡(4-2-38)には、「高下 中屋様岸嶋^(郷) 二歩一朱」とあり、また別の断簡(1-2-69)では、「大戸 小方 奈良一丈七寸二十二銭一厘」とあり、「高下」「大戸」いずれも、久米郡美咲町の地名である。そして、表2のような「美作方面へのルート」がみられる。しかし、「秀下」「田坪」の地名は地図上にみあたらない。「秀下」は、「高下」のことであろうか。美作へは、周匝あるいは和気の方面から入っていたことがわかる。

e 周匝・和気・備前

和気・備前方面への行商は、「周匝・和気・備前方面へのルート」(表3)のようになり、また、地図Bに取引先があつた地名を示してみた。

さらに、岡山県内において取引先がわかるものについては表4に示した。

⑤ 年間の売上

永瀬家の商売関係の帳簿も断簡でしか残らないため、はつきりとしたことはわからないが、いくらかの断簡から表5のような数値が読み取れる。年号は干支であつたが、史料の残存状況から年代を比定して寅年は明治一年(一八七八)と考えて差し支えないと思われる。およそ九年間の売揚や利益をかううじて断簡から拾い上げることができた。年を経るについで売り上げを伸ばし、かなりの利益を上げていたことがわかる。

(2) 日常生活

① 諸物品の購入

永瀬家が生活するにあたって必要な物品を購入した領収書や通などが残る。どこか

ら、どのようなものを入手して生活していたのだろうか。

a 京都

- ・煎茶など…三芳園(押小路東洞院)
- ・暦入絵…鳥居又七(京四条高倉西)
- ・仕入帳…水原宗助(室町通蛸薬師)

b 大阪

- ・ひら木など…伊丹 万建具衝(大坂井池南本町)

c 岡山、松木周辺

- ・梅…国分浅太郎(岡山船着町)
- ・魚…シン李治

新田黙三郎

- ・菓子…入江□太
- ・万物…小松屋小引善五郎(松木)

万屋(松木)

竹屋(松木)

□□金五郎

・酒…松屋善七

永瀬宮次郎

栄蔵カ

・瓦…瓦師弥六(下村)

② 永瀬家の棟上げ

史料「〜」も断簡であるが、「宅主三十八歳 甲辰四緑星」とあり、「上棟大吉日」として「五月二一日、五月二七日、五月三一日」の三日が挙げられている。宅主が「甲辰」の生まれなので年号にすると弘化元年(一八四四)、そして棟上げのときの年齢が三八歳なので、明治一四年(一八八一)ということになる。この断簡を信用すれば、永瀬清子の生家は明治一四年に建築されたことになる。「登録有形文化財登録証」には、建設年代は「明治前期」と記されるのみであるが、今回の襖の下張りの調査から「明治一四年」というより明確な年代を導き出すことができた。

以上、襖の下張り下段から永瀬源作の商売の様相と日常生活の一端について知ることができた。これまでいわれてきた永瀬源作の商売は、反物を手代にかつがせ、中

国山脈を越えて、山陰地方の得意先をまわっていたということであった。この下張りの下段の調査から、源作は京都へ仕入れに行っていて、その際に登り売りをしてしたこと、またどのような輸送ルートで反物を運んでいたか、岡山は商売の取引の場所であり、山陰ばかりではなく、源作の居住地松木周辺、和気・備前・周匝、あるいは美作や津山などまで行商にいつていた。源作が京都などから入手した反物は当時としては最新のファッションであり、それを岡山県内の田舎といえる地域の人たちへ届けて廻り、その土地のある程度の富裕層が購入していただろうことが推測される。このように、源作の商売について具体的に明らかにすることができ、さらに、小さな断簡からこの旧永瀬家住宅の建築年代をほぼ特定することができた。

2 (襖の下張り上段) 医者の橘右仲関係の古文書について

襖の下張り上段の古文書は、医者の橘右仲関係、土佐米の運送に関するものと大きく二つにわけることができる。

① 橘右仲関係

a 橘右仲の居住地

襖の下張りの上段には、橘右仲という医者に関係するものが主として貼られていた。この橘右仲について、史料「1—39」に「河州大番四番村橘右仲様 大和屋太助 用書」という断簡があり、これがかろうじて右仲の居住地を探る手掛かりとなった。右仲に「四番村」という地名が付されている史料は、ときおり目にするのだが、この四番村がわからなかった。またこのように「河州大番四番村」とあるので、河内国内をくまなく探してもみつからない。そして漸くにして、「大庭四番村」であることをつきとめた。これは、茨田郡大庭四番村で旗本領であり、現在は大阪府守口市に相当する。

b 橘右仲の親族

史料の中では、桂六太夫(山太平)からの書状が多くみられる。完全な状態で残っている書状もあるが、前欠や後欠、書状の一部しか残っていないものも多い。そうした史料の内容を断片的に拾っていった。桂六太夫とおたけが連名の場合もあり、右仲が二人へ宛てた書状(「2—1—13」)によると、「安産のみ案じ待ち兼ねている。お久への御文がめんとうなので、差し上げていない」とあり、お久は出産のため実家に帰っていることが推測できる。そこから、お久は桂六太夫とおたけの間の娘であり、右仲

の妻であることがわかった。

桂六太夫についてみていくと、史料「1—1」の「組の者藤次と〔大〕坂へ用向に罷り越し…」、史料「8—1—16」で、「六太夫の悴榮八郎より大津駅にて、御小納戸役加番を仰せ付けられたと申し越してきた」といったような内容があり、桂六太夫は武士であることが推測できた。しかし、どここの家中の侍で、居住地はどこなのかを特定するにはかなりの時間を要した。断簡に近いような書状を丹念に読んでいくなかで、その手掛かりとなったのは以下の史料である。

・史料「1—1—16 (桂山太平・栄八郎書状)」

「砲術が、明後二三日に大橋河原で執行される」

大橋河原：淀大橋。

・史料「2—1—12 (橘右仲宛桂山太平書状)」

「お久が東運寺へ参ると申しているが、差し留めている」

東運寺：現、京都伏見区淀新町。

・史料「1—1—10 (橘右仲宛カ)」

「こかうの宮には、ことしは芝居はやめ、きりんが参ること。みこしの稽古の最中である」

こかうの宮(御香宮)：現、伏見区御香宮門前町。

これらから桂六太夫は京都の淀に居住し、淀藩の家臣であることがわかった。

一方、曾我弁吾から曾我字仲へ宛てた書状(「2—1—4」)があり、そこには「千秋万来目出度」、御祝儀の御悦びについて述べられており、これは婚姻の祝儀だと推測され、橘右仲の旧姓は「曾我」であったのかもしれない。しかし、そうであったとしても、「曾我」から「橘」に改姓した理由まではよくわからない。また、祖母から橘右仲へ宛てた書状があり、桂六太夫には娘が二人いたようで、祖母は婚姻に際して「姉子をさし置き、妹子と申すは人倫にはづれ、おとなしからぬ様に存じ…」(「2—1—29」)と申しているのに対して、「御姉様を差し置き、御妹子を御所望仕るのは不本意の道理であるので御断り申し上げるべきところ、御両親様より御両人の中、いづれ様にてもさしきまいないということなので、御妹子様を御所望仕りたい」という右仲の心中を、彼の書状の下書(「2—1—20」)から読みとることができた。

c 橘右仲の知人

桂六太夫と推測される人物からの書状(「4—1—20」)によると、「橘右仲と申すの

は末の娘を遣した婿で、この度、大坂へ引つ越したが居所を覚えていないので、中橋筋本町（現、大阪府中央区）に居る堀元厚げんこうという医者を探ねのこと」とある。堀元厚は、貞享三年（一六八六）に生まれ、宝暦四年（一七五四）に死去したが、小川朔庵に学び京都で開業し、本居宣長の医学の師でもあった。別の土地に居住していた橘右仲は大坂へ引つ越してきて、この堀元厚とは知り合いであったことがうかがえる。

また、桂六太夫から橘右仲へ宛てた書状で「船橋様へ御出のついでがあれば、遠方であるが御立ち寄り下されたきこと」（一―一〇）、「船橋様へ御座の御祝に、使いを上げたこと」（一―一〇）などから、右仲は船橋様と関係があったようだが、他に、木田宗太夫や川澄紋左衛門、北村正藏などのかかわりもみえ、詳しくはわからないが淀藩士であろうか。

d 治療関係

治療関係の史料として、婦人科関係（3―1―25・3―1―33）あるいは歯痛・腫物や便毒などの治療法や処方箋の断簡（3―1―36・4―1―12・4―1―36他）がある。さらに薬種の通・受取覧などがあり、近江屋喜介・沢上口屋小三郎・薬屋文右衛門から薬種を買い入れていたことがわかった。

e 日用品関係

日々の生活に必要な品物は、左の商人から購入していたことがわかる。

- ・越後屋忠右衛門 …… 豊後半切・ちり紙・中紅
- ・たるや久兵衛 …… 手桶など
- ・守屋武兵衛 …… たばこ
- ・河内屋吉兵衛 …… 小刀
- ・三井半次郎 …… 呉服
- ・堤ノ勘兵衛 …… 茶・油
- ・六番村鉄藏 …… 魚（享和二年）

② 土佐米の運送関係

橘右仲関係の史料の他に、土佐の米を大坂へ運送しており、それに関する史料がいくらかみられる。荒物屋治兵衛が土佐屋六兵衛に宛てた「入札」があり、そこには、土州（土佐）米六〇俵とある（一―一―28）。また、大和屋宇兵衛は土佐屋六兵衛から土州米を買い請けていた（一―一―28）。鴻池庄兵衛から土州御仕送方御役所へ宛てた口上（3―1―35）には、吉舟千「百カ」五拾俵（但し、五四〇石二五俵、切手五四枚）

とあり、切手の調印がなされた。沖船頭藤吉は、六端帆船頭船主八人乗の鉄之介船が、土佐国野地を出て御米を積り登り、今日入津したことを御船手方御役人へ届け出ている（3―1―17）。史料一―一―19には、「二〇〇目須崎治兵衛船、二貫目須崎次兵衛船、二貫五〇〇目野根幸松船」とあり、四月二三日に返上されたことがわかる。

③ その他

和歌・狂歌・川柳などの書付があり、中には「ひん（東）かしのあつまの国にもの学はんとて刈谷季恭（浮）いかんとするとき、松吉の東風魚かうかび出てうたふ」（3―1―47）という断簡がある。刈谷季恭は土佐の人で、浪花に居住していた。また、書状（8―1―26）に「宇治五十槻大人（荒木田久老あらきだひさおや）の万葉が大いにはやり、土佐人誰々、すくも（宿毛）人が追々出会った」とあり、荒木田久老は国学者・歌人で、賀茂真淵に入門、『万葉考槻落葉』などの代表作がある。さらに、春木慶蔵という人物がみうけられ、「御用方慶蔵」「下代類慶蔵」「上州慶蔵」とも記される。書状などが残るがどういった人物かはわからない。6―1―6の断簡に、「表具屋清兵衛カ」の名がみえ、上段に貼られた史料を反故紙として収集した人と関係があるのだろうか。

以上、襖の下張り上段には、主として「医者橘右仲関係」と「土佐米の運送」に関する史料が貼り付けてあった。下張り上段のうち年号がわかるものは、寛政一三年（一八〇二）の「薬種通」（8―1―14）、享和二年（一八〇二）の「肴の通」（一―1―38）であった。橘右仲と知り合いであったであろう堀元厚は、貞享三年（一六八六）の生まれで、宝暦四年（一七五四）に死去しているので、その辺りも考慮してこの襖の下張り上段の年代を推定すべきであろう。橘右仲は、旧姓を「曾我」と称していたようで、旗本領の茨田郡大庭四番村（現、大阪府守口市）に居住しており、淀藩土桂六太夫の娘を妻にしていた。治療や処方箋について書かれた断簡、薬種の受取書などから薬種の購入先の商人などを知ることができた。さらに、土佐米の運送についていくぶんか知ることのできる史料もあった。

おわりに

永瀬清子の生家から出てきた襖の下張りは、清子の祖父源作の商売について知ることのできる貴重な史料が含まれていた。源作の商売についてこれまで伝わってきたことが、今回の調査でより具体的に明らかにになったのではないかと思われる。そして、国登録有形文化財の建築年代が明治前期とされていたが、今回の調査では明治一四年

ということがわかり、ほぼ明確な年代を導き出すことができた。

この襖の下張りの構造は、下段に永瀬家が所有していた古文書が貼られ、上段には大坂辺りの古文書が貼られていた。この上段の古文書は、江戸時代後期のものであるが、それはどのように収集されて運ばれ、なぜ熊山の松木の永瀬家の襖の下張りとなり得たのか。そのあたりは明確ではない。こうした古文書を反故紙として、大阪の辺りから売りにきていたのだろうか。

とにかく襖の下張りとして貼られていた書状や覚、書付などの断簡、それは捨ててしまわれても仕方のないものであるにもかかわらず、そこから読み取ることのできるわずかな情報から明らかにできた事柄も少なくなかった。かなり地道な作業の積み重ねとなったが、このような小さな断簡であっても丁寧にそして大切に取り扱いっていくことによって、新たな発見につながることもあるのである。

本報告書の執筆・編集は、内池昭子（岡山大学文明動態学研究所非常勤研究員）がおこなった。報告書の作成にあたって、下張り剥離や表打ちの方法については神戸大学の松下正和氏にお世話になりました。なお本報告書は科学研究費特別推進研究「地域歴史資料学を機軸とした災害列島における地域存続のための地域歴史文化の創成」（令和元年～五年年度、研究代表者・奥村弘）の研究成果である。

表1 京都・越後等取引先一覧（主として仕入先）

店名	所在地	取り扱い品	年代
西羽善兵衛	京都	縮緬・西陣・信州紬・飯田嶋・奉書、他	
松居庄治郎	西京 蛸薬師烏丸西江入	奈良晒・秩父・郡内・白越後・伊勢崎、他	明治10・14・15年
谷利茂助	西京間之町御池下ル 御池間之町東入	縮緬、他	明治14・15年
溝口新兵衛	五条通 烏丸西 井新 五条通 室町東 井新	縮緬・白綾子、他 嫁入小袖仕入所	明治10・15年
沢村芳兵衛	西京蛸薬師室町入	博多・文庫・朱子、他 半襟鹿子類	
高山弥助	京都	緞子・朱子・絹縮、他	明治10・14年
竹田幾太郎	西京 柳馬場通六角下ル町	岸縞・郡内・越後結城・吉野、他 越後縮結城関東呉服物おろし	明治14年
田畑武兵衛	京都烏丸通三條南エ入	博多広・綾子・朱子、他 西陣織物帯地類仕入所	
市田店	京六角高倉西江入町	黄八丈・岸嶋、他 呉服夏物仕入所	明治13～15年
遠藤与七	京都	広島朱子・広博多・嶋縞子、他	
内貴清兵衛	京都東洞院御池上町	南部・本米沢・博多、他 呉服正札附仕入所	明治12・14年
山田定七	京都烏丸三条下ル町	本糸織・南部・嘉平次、他 関東呉服仕入所	
山田市次郎	室町通五条上ル町	南部、他 京都仕入所 西洋織物類 関東呉服類 染物着尺類	明治14年
蟻井ふさ	京都五条通烏丸西入	郡内、他 西陣物仕入所	
小堀喜助	京松原通室町角	博多、他 西陣織 博多小倉仕入所	明治13・14年
猪田新助	京都室町通四条上ル	結城・仕立文庫、他	明治14年
長野与兵衛・甚七	京都	西陣、他	明治15年
田中利三郎	西京 万寿寺烏丸西入	朱子、他 西陣織物仕入所	
藤田伊兵衛	西京 五条通東洞院西ニ入	金巾 金巾□□ 染地仕入所	
奈良武	京烏丸松原北入	合羽、他	
喜多川源兵衛	京都 六角		
下村忠兵衛	京からす丸六条下ル	岸小嶋・仕立文庫、他 関東呉服并染絹仕入所	
下村彦兵衛	京都東洞院西光寺北入	西陣織物仕入所	
河本庄兵衛	東洞院六角下ル		
関矢源兵衛	越後		明治15年
吉田十兵衛	西都 室町三条下ル	朱子 西陣織物類	明治14年
近江屋峰上太平	京都五条通東洞院	裾除	明治14年
峰上太平	京都	裾除染	明治13年
月の屋芳兵衛		白綾子・朱子・重掛など	
松屋重太郎	京都 五條烏丸西入町	朱子 西陣織物仕入所并ニ小物	
斎藤茂兵衛	西京烏丸通錦小路上ル町	裂地	
石原房	京都岩上通四条南	呉服仕入所 染物悉皆	
組谷定七	西京東洞院通蛸薬師下ル	西陣織物帯地類 広女帯地并ニ九寸男帯りい	

糍屋善兵衛	京都 あけず通松原下ル町		
関矢源兵衛	越後	嶋	明治15年
金子桂吉	越後	縮	明治14年
山岸佐兵衛	越後柏崎		明治15年
松村亀蔵	越後柏崎		明治15年
地田屋〔 〕	越後柏崎		明治14年
山本小三郎		小倉・朱子、他	
川中正次郎		縮	
蛭子五兵衛		絹糸・服紗・糸、他	
早藤長兵衛		御召・納戸秩父・緞子、他	
布屋事酒カ田五郎平			
布屋半兵衛			
井筒屋茂兵衛		南部・武州本糸織・上州本糸織、他	
かわたまへみせ		本紅木綿・真綿	
上田屋伊助		友仙・縮緬	
日野方			
梅垣藤兵衛・菊太良		小倉糸	
平野平兵衛		朱子	
堀口五平		生糸	

表2 美作方面へのルート

経路	史料番号
南方(備前市) → 藤野(和気町) → 秀下(?) → 作州	7-2-68
秀下(?) → 円坪(?) → 周匝(赤磐市) → 北方(備前市) → 和気	7-2-67
佐伯 周匝山の上(赤磐市) → 松木(赤磐市) → 原(和気町) → 奥(美作市)	7-2-63
本(和気町) → 奥(美作市) → 秀下(?)	7-2-18

表3 周匝・和気・備前方面へのルート

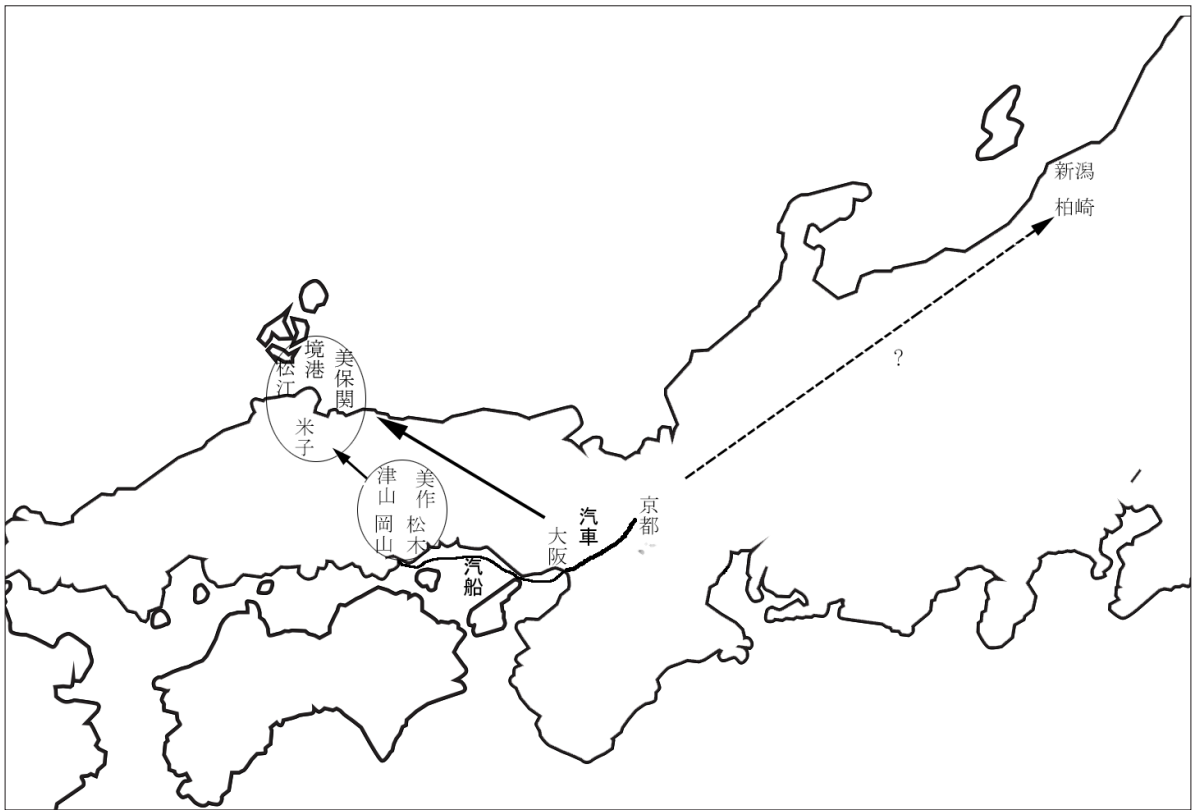
経路	史料番号
和気→本(和気町)→殿谷(赤磐市)→田原・日笠(和気町)→田ヶ原(和気町)→吉田(和気町)→神根(備前市吉永町)→吉永 (備前市)	7-2-37
大田原・和気→本庄(和気町)→吉原(赤磐市)→松木カ・沢原(赤磐市)→下(可真下カ、赤磐市)→稗田(赤磐市)	7-2-38
周匝(赤磐市) → 田原(和気町) → 熊野(熊野神社カ、和気町) → 和気	7-2-38
周匝(赤磐市) → 本(和気町) → 和気 → 吉田(和気町) → 北方(備前市吉永町) → 神根(備前市吉永町)	7-2-53
本・田原(和気町) → 原(和気町) → 田原 → 藤野(和気町) → 和気	7-2-67
吉田・泉(和気町) → 神根(備前市吉永町) → 円(円光寺カ、赤磐市) → 父井原カ(和気町)	7-2-69
周匝(赤磐市) → 本(和気町) → 和気 → 吉田(和気町) → 北方(備前市吉永町) → 神根(備前市吉永町)	7-2-63
藤野(和気町)→ 日笠(和気町) → 神ノ(神ノ山カ、和気町) → 御(小)野田(赤磐市熊山町)	7-2-56
奥(美作市)→吉田(和気町)→北方(備前市吉永町)→神根(備前市吉永町)→日笠(和気町)→釣井(赤磐市)	7-2-56
木倉(和気町) → 御田内(?) → 和気	7-2-27
飯掛・牛中(備前市吉永町) → 日笠(和気町)	7-2-27

表4 岡山における取引先一覧(主として売先)

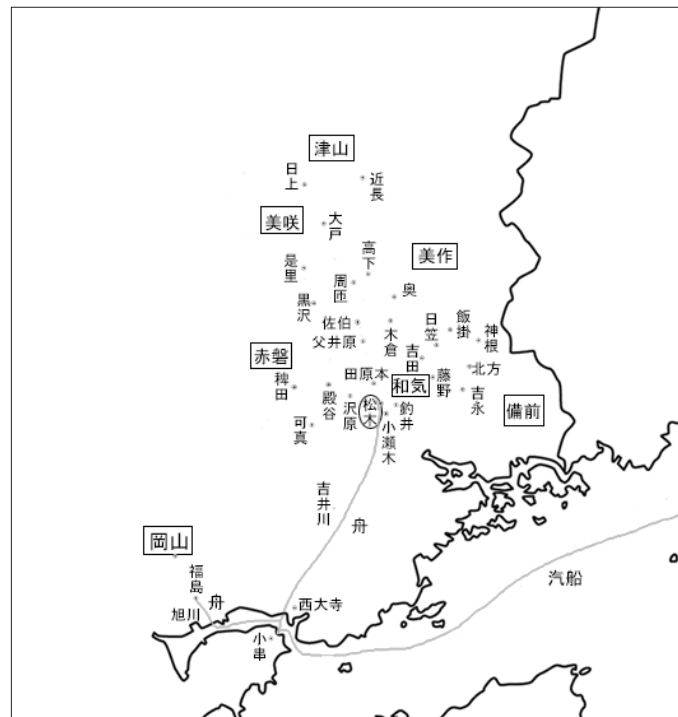
地名	現地名	取引相手	品物
高下	久米郡美咲町	中屋	岸縞2歩1朱
大戸	久米郡美咲町	小方	奈良1丈7寸 22銭1厘
ふかざい(深谷)	久米郡美咲町	雪蔵	三唐縮面 17匁、他
山の上	久米郡美咲町高城	石堂喜四郎	朱子など 2両3分3朱
山の上	久米郡美咲町高城	喜藤治	博田帯代5両
山の上	久米郡美咲町高城	綱次郎	513匁5分、他
山の上	久米郡美咲町高城	徳造	孫五郎代不足 225匁、他
周匝	赤磐市	伊勢屋	綾1反 1匁1朱
周匝	赤磐市	荒木弥吉	上々出雲6尺2寸の注文
黒本	赤磐市	昨助	綾1丈 55匁
黒本	赤磐市	万助	上下1両2歩2朱、他
黒本	赤磐市	茂吉	金巾 24匁、きぬ晒 14匁、他
是里	赤磐市	清五郎	岸1反 2両2分2朱、小もん2尺 5匁、他
是里	赤磐市	近藤	綾1反 1両1分、小倉1本 3分3朱、他
小瀬木	赤磐市	兼吉	30銭、他
釣井	赤磐市	広瀬新宅	2円45銭
吉原	赤磐市	吉太	
大成	和気町	良平	10銭
矢田	和気町	坪井	24銭、他
吉田	和気町	久平	御召・更紗大巾など 2両3歩2朱、他
曾根	和気町	北嶋屋	奉書羽織1反 1両2歩1朱、他
塩田	和気町	原	金巾 48匁、紫唐縮面 6匁6分、他
塩田	和気町	岡本屋	本九寸 44匁、他
塩田	和気町	作次郎	金巾・五日市など 181匁2分
塩田	和気町	仕立屋	紐13匁、他
本	和気町	原	白あさなど 3円58銭7厘
本	和気町	延原	1円70銭、他
北方	備前市	武本	2両3分、など

表5 年間の売上

干支	和暦	西暦	売揚	水揚	利	仕入	入用	史料番号
寅	明治11年カ	1878	80貫827匁		16貫247匁			4-2-30
卯	明治12年カ	1879	118貫334匁		23貫360匁			4-2-30
辰	明治13年カ	1880	98貫890匁		19貫486匁			4-2-30
巳	明治14年カ	1881	143貫291匁					4-2-30
午	明治15年カ	1882	233貫754匁	46貫930匁6分				3-2-76
未	明治16年カ	1883			44貫16匁1分	163貫575匁	22貫68匁6厘	3-2-77
申	明治17年カ	1884	238貫171匁3分		39貫131匁5分			3-2-76
酉	明治18年カ	1885	2004円45銭	322両2歩2朱		149貫目		3-2-75
戌	明治19年カ	1886	2433円	405円10銭1厘				3-2-79



地図 A 仕入れ・行商先及び輸送ルート



地図 B 岡山県内の行商先

旧永瀬家住宅襖下張り文書目録

史料番号	標題	年代	数量	内容	備考	剥がす前の写真
1 1 1	〔橋右仲宛桂山太平書状〕	年未詳7月4日	1通	六太夫事桂山太平 足痛はどうかの伺い。昨日、望みの名山太平と相改め申すよう申し付けられた。組の者藤次と〔大〕坂へ向向に罷り越し、御容体を相伺うようにとのことなので、食事などの世話は御用捨なされ、御茶・たばこだけでよいこと。		○
1 1 2	〔橋右仲宛桂六太夫書状カ〕	未詳	1通	御立寄下され、緩々と御語り下されたこと。夜分で路次が悪しく心配していたが、北村様、御惣客様にも御障りがなかったこと。悴の縁組みは御任せするので、よろしく頼むこと。別段で、御目に掛かり密談したい一件があること。	後欠	○
1 1 3	〔橋右仲宛書状〕	未詳	1通	肴を少しばかりであるが、御目に掛けること。	前欠(本文欠、尚々書のみ)	
1 1 4	〔橋右仲宛書状カ〕	未詳	1通	御地は米も格別によろしきこと。不快の節、大なんきん御取り寄せ、枕上りによしとのことについて。	前欠、後欠	○
1 1 5	〔橋右仲宛桂六太夫書状〕	年未詳5月25日	1通	一之手、二之手当着のことについて。船橋様へ御出のついでがあれば、遠方であるが御立ち寄り下されたきこと。私は、2、3年以前、秋より足痛が強いことについて。	前欠、後欠	○
1 1 6	〔橋右仲宛書状カ〕	未詳	1通	忤義、出立前にて御暇乞いに罷り出たいが、無音に打ち過ぎていること。爰元の祭りに御出なさるよう仰せ下されたこと、他。	前欠、後欠	○
1 1 7	〔橋右仲書状カ〕	未詳	1通	歩行なりがたきところ、御快方のこと。日夜、御灸治御業用にて、どうやら御脚氣立ちと御察し申す。	下書カ 前欠、後欠	○
1 1 8	〔橋右仲宛桂山太夫書状カ〕	未詳	1通	盆の御祝義につき、2品進上のこと。船橋様へ御座の御祝に、使いを上げたことについて。	前欠、後欠	○
1 1 9	〔菓種書付〕	未詳	1枚	葛根2匁8分、柴胡6匁8分、甘草3匁、他	帳簿の断簡	
1 1 10	〔橋右仲宛書状カ〕	未詳	1通	京都・福井などへ御見せになった方がよいのではないか。爰元も、かつけ(脚氣)がはやっているが、なおしたこと。御かんやう(肝要)第一である。若との様が19日に御立ちのこと。兄は急に当番になり、11・12日には参ることができないが、番が済んで15・16日に頃に参上したいこと。こかうの宮には、ことは芝居はやめ、きりんが参ること。みこしの稽古の最中である。	女筆 前欠・後欠	○
1 1 11	〔橋右仲宛桂山太夫書状〕	年未詳7月5日	1通	両掛は木田宗太夫より借りたが、急ぎ参府につき返し、かわりの品を上げるることについて。	前欠、後欠(本文ほぼ欠)	○
1 1 12	〔橋右仲宛書状カ〕	未詳	1通	いとべ(カ)へのみやげ物の事について、右仲様が不快中、さような御心遣いはなされず、御かんひやう第一のこと。御当所御神事に参るようにとのことであるが、兄が出立前で、当所の神事に取り込み、当年は参上せず、来年参上すること。	女筆 前欠・後欠	○
1 1 13	〔橋右仲宛書状カ〕	未詳	1通	かならず御出には及ばないこと。まつりには参上しないこと。ささげをたくさんいただいたこと。そめもの・わた入・じゆはん・八丈小袖などを進上する。	女筆 前欠・後欠	○
1 1 14	〔橋右仲宛書状カ〕	未詳	1通	とうからぬ内、御里で御めもじて、おはなし申したいこと。過ぎし月、りうさん(流産)なされ、まことにおしきこと。	女筆	○
1 1 15	於難波新地舞台稽古大能組	未詳	1通	三輪、祝言など		○
1 1 16	〔須崎新右衛門宛酒井老カ之助書状〕	年未詳9月13日	1通	清八がしばらく滞在し、お世話になっていること。別封で要用を申し遣したこと。		
1 1 17	〔切手・目録等差立覚〕	年未詳11月13日	1通	役所 宮地忠蔵切手5枚、宮田与七郎目録覚1枚、他		
1 1 18	覚(銀子御越しのこと)	未詳	1通	銀38貫917匁9分8厘 森田弥三平		
1 1 19	〔船返上書上〕	丑年10月20日	1通	200目 須崎治兵衛船 4月22日返上、2貫目 須崎次兵衛船 4月22日返上、2貫500目 野根幸松船 4月22日返上、他 丑10月10日引渡二入、松浦貞蔵		
1 1 20	〔書付〕	未詳	1通	身廿五尋 掛目十六貫五百、他		
1 1 21	〔書状断簡〕	未詳	1枚	慶蔵について		○
1 1 22	入〔札カ〕	未詳	1通	六兵衛 土州米25俵 2人に付、41匁6分	後欠	
1 1 23	〔買請覚〕	年月未詳4日	1通	〔土州〕米45俵 2人に付、42匁4分 春田屋四郎兵衛→土佐屋六兵衛		○
1 1 24	入札	年未詳11月4日	1通	荒物屋治兵衛→土佐六 土州米60俵、他に入札 土佐米30俵		○
1 1 25	〔買請覚〕	年月未詳4日	1枚	いつミ屋三郎兵衛	断簡	○
1 1 26	〔橋右仲宛書状カ〕	年未詳9月	1通	右仲様が姉を訪ねてくれたが、熱が出て気むずかしく、頭痛が強いこと。	女筆 後欠	○
1 1 27	〔書状断簡〕	未詳	1通	昨日参上したが留守につき、夜前参上。		○
1 1 28	〔土州米買請覚〕	戌年6月10日	1通	大和屋宇兵衛→土佐屋六兵衛 2人に付、36匁2分7厘、2分まし	前欠	○
1 1 29	書出し	辰年12月	1通	にしきや銀蔵→下代類慶蔵 丑ノとし分 1わ5口	破損甚し	○
1 1 30	〔日付別人名書上〕	未詳	1通	24日 重丞、24日夜半 孫五郎、25日朝 千助、25日昼 慶蔵		
1 1 31	雪中歌	未詳	1枚	「白雪の小めつもち 中にきんにつゝミ…」	断簡	
1 1 32	覚(代銀書付)	未詳	1通	1状延 84匁	後欠	

1	1	33	覚(御用の儀について)	未詳	1通	御用の儀あり、四つ時暮役場へ	後欠	
1	1	34	〔書状断簡〕	未詳	1枚	木たおばー[お]久様		
1	1	35	〔代銀書付〕	未詳	1枚	上酒3合 5分4厘、松茸 5分、他	帳簿の断簡	
1	1	36	〔薬種書付カ断簡〕	未詳	1枚			
1	1	37	〔書付断簡〕	未詳	1枚	5匁掛 10斤、他 73斤		
1	1	38	肴の通	享和2年正月	1枚	六番村鉄蔵→橋有仲	表紙	
1	1	39	賦耕於東郊各分一字	未詳	1枚	詩探得翁	写	
1	1	40	〔入費書付〕	未詳	1枚	50匁 貫銭、アイラウ 1分5厘、他	帳簿の断簡	
1	1	41	越後騒動通夜物語巻	未詳	1枚		写断簡	
1	1	42	〔越後騒動通夜物語巻〕	未詳	1枚		写断簡	
1	1	43	〔書付覚〕	未詳	1枚	医学用語。麻痺、痛痺、眩暈など	破損甚し 上から文字の練習をしている	
1	2	1	〔永瀬源作宛内田佐七郎書状〕	年末詳1月13日	1通	税金取立につき、各人別へ申し触れのこと。	(上書)「永瀬源作殿 内田佐七郎」	
1	2	2	〔永瀬様宛永瀬常八書状〕	年末詳12月19日	1通	美保関二而 永瀬常八 伯州米子に逗留、堺湊へ四泊まり、美保関へ渡り商法仕る。兄上様より上京の砌、西京よりの書物米子へ着、内方の様子相分り、大きに安心した。兄上様もこの頃は御商法に御出か。1月2、3日には米子へ立ち寄る積りである。		
1	2	3	〔金子登しの件につき書状〕	未詳	1通	一向金子手に入り申さず、金50円は松居店様へ、金50円は西羽カ店へ相登し、高山店・田畑店へは相済まず、当月中には登す積りである。高山店・田畑店へ御出の節は、よろしく御断りのこと。手前に50円あり、この分は岡山岡崎屋へ登し金致す積りである。宗堂茶屋勇次郎、藤之進、武藤氏の借用の40円を払い込んだと申し越されたが、いつれ1月には武藤氏へ立ち寄る。拙義も武藤氏へ百円払い込みのところ、なかなかできないので断書を指し出す積りである。鶴江・山本や・拙義、両三人で売事を仕るが不都合である。大坂より米子、坪江行にて堺湊村にて指こしの分は、当月1日に無事米子着のこと。	後欠	
1	2	4	〔御断りの書状〕	辰年1月9日	1通	前欠にて内容不明。常八様へ御帰宅ならば、よろしく御伝言のこと。	前欠	
1	2	5	〔まつき永瀬様宛源作書状〕	年末詳1月13日	1通	拙義は、当月20日までは帰宅いたす。外より金子払い込みに参れば御受取のこと。取替は御断り、武八へも取替いたさず。	後欠。 (上書)「まつき永瀬様江 貴下 源作」	
1	2	6	〔永瀬源作宛堀与市書状〕	未詳	1通	御相談申す金子の儀につき、和氣や河田へ御相談しても六ヶ敷、30円だけは御心配下されたく願上のこと。	後欠 (上書)「松木永瀬源作様 佐伯堀与市 至急要用願上」	○
1	2	7	〔永瀬源作宛金次カ善次郎書状〕	未詳	1通	常八様へ御役介になっているので、御伝言下されたきこと。	後欠 (上書)「松木 永瀬源作様 貴下 平じま 金次カ善次郎」	
1	2	8	〔永瀬源作宛石原十七吉書状〕	未詳	1通	下拙、風邪にて引き籠もりのこと。	後欠 (上書)「松木 永瀬源作様 尊上要用」 (裏書)「可真上村 石原十七吉」	○
1	2	9	〔栄屋源作宛田邑カ土居書状〕	年末詳11月1日	1通	御信頼申しおく染物を御回送下され落手致し、買物代43円12銭3厘につき、43円を御使へ渡したこと。	(上書)「栄屋源作様」 (裏書)「田邑カ土居」	○
1	2	10	〔永瀬源蔵宛吉原邸戸長役場書状〕	未詳	1通	代人にて、至急御差越しのこと。	(上書)「松木邸永瀬源蔵殿 大至急」 (裏書)「吉原邸戸長役場」	○
1	2	11	〔御内談の件につき書状〕	年末詳1月22日	1通	御内談申し上げたきことがあるので、今夕にても御来駕下されたきこと。		○
1	2	12	〔永瀬源作宛西羽カ善兵衛書状〕	年末詳11月16日	1通	御返納申上、常八様へ御咄し申したこと。金50円は入手。当地も金、大いに不廻りにて甚だ困り入る。	前欠(本文欠)	
1	2	13	欠番					
1	2	14	〔永瀬源作宛内田房次郎書状〕	未詳	1通	貴面いたし、御咄し申し上げたいこと。	(上書)「永瀬源作様 内田房次郎」 前欠(本文ほぼ欠)	
1	2	15	明治十四年 諸品御通	明治14年	1枚	小引善五郎→永瀬源作 ふな5人 2銭、酒2合8勺 7銭4厘、他	表紙、帳簿断簡 (印)「備前 磐梨 松木 小松屋」	
1	2	16	〔代金書上〕	午年6月14日	1枚	煙竹1丸 12銭5厘、小筆1本 7銭、三折一状 6銭、ほふき 2銭、他	帳簿の断簡	
1	2	17	〔代金書上〕	未詳	1枚	白砂糖8銭、餅2銭、他	帳簿の断簡	
1	2	18	〔代金書上〕	未詳	1枚	こんろ1銭5厘、ろふそく1銭5厘、他	帳簿の断簡	
1	2	19	〔代金書上〕	未詳	1枚	みかん・割よふじなど 7円95銭7厘受取	帳簿の断簡 (印)「磐梨 松木 小引 請取証」	
1	2	20	〔代金書上〕	未詳	1枚	白砂糖17銭、酒2升 36銭、他	帳簿の断簡	
1	2	21	証(代金書付)	明治14年6月14日	1通	峰上太平→堺屋 掘除吟風 3円90銭	(印)「京都五条通東洞院 近江屋太平」	

1	2	22	記(代銀書付)	年未詳11月15日	1通	西羽善兵衛→永瀬源作 松鼠縮面1貫120匁、越前912匁、他 過日御注文の品々が、大いに延引したので御断り申上、今便に 御送り申し上げる。		
1	2	23	入日記	明治14年9月25日	1通	猪田新助→口(栄屋の屋印)御店様 結玉取合32反、御送り申上		
1	2	24	証(代金書付)	年未詳9月6日	1通	いた伊一備前松木栄屋源之助 ひら木代など 〆16円70銭	(印)「大坂 井池南本町南入 伊丹 万建具衛」	○
1	2	25	証(運賃請取)	年未詳12月10日	1通	河田支店→栄屋源作・栄屋兵 唐櫃カ4個 小串上り賃88銭	(印)「汽船口区役所大阪 大川町河田支店」	○
1	2	26	記(代銀書付)	未詳	1通	広博多 655匁、他		
1	2	27	覚(代銀書付)	年未詳9月8日	1通	藤村勘七→永瀬源作 380匁		
1	2	28	証(代金書付)	明治10年9月9日	1通	高山弥介→栄屋源作 六丈本口 2疋 862匁		
1	2	29	覚(代金書付)	年未詳12月26日	1通	国分浅太郎→上 梅代など 〆1円13銭	(印)「備前 船着町〔 〕」	○
1	2	30	記(代金受取)	(明治)15年1月10日	1通	溝口新兵衛→永瀬源作 〆数18 〆高12貫225匁、古手買取など 〆118円25銭受取、差引 400匁、此金4円受取	(印)「五条通 烏丸西 井 新」	
1	2	31	覚(茶代請取)	年未詳9月8日	1通	三芳園→備前堺屋源作 煎茶1斤、薄茶1斤半など 〆1円25銭5厘請取	(印)「銘茶所 押小路通東洞 院角 三芳園」	○
1	2	32	記(代銀書付)	年未詳9月9日	1通	御池間之町東入谷利 茂介→堺屋 縮面カ代など1貫570匁		
1	2	33	覚(代金書付)	年未詳9月9日	1通	山本小三郎→永瀬源作・同米カハ 小倉など 〆4円59銭		○
1	2	34	覚(代金受取)	年未詳9月6日	1通	井上店カ→堺屋源之助 金1円受取		
1	2	35	覚(引換)	年未詳9月6日	1通	清水半店→上 一朱銀・古式朱など 〆金札17円99銭		
1	2	36	証(代金書付)	年未詳9月8日	1通	上田屋伊助→堺屋 友仙・縮面代7円30銭		○
1	2	37	証(代金請取)	未詳	1通	おか元→永瀬様 ひる飯代など 〆1円4銭請取	(印)「金銀不用 大阪大川町 西 荷物取扱所 多田徳」	○
1	2	38	記(代銀書付)	年未詳9月8日	1通	山本小三郎→永瀬源作 黒朱ス・小倉代など 〆620匁		○
1	2	39	覚(代銀書付)	年未詳9月8日	1通	梅垣藤兵衛・菊太良→栄屋源之助 小倉糸入など 〆578匁		
1	2	40	〔代銀書上覚〕	年未詳9月8日	1通	野村武助→堺屋源之助 205匁、他	前欠	○
1	2	41	〔仕立覚〕	未詳	1枚	袖1尺3寸5分仕立、丈4尺2寸仕立、他		○
1	2	42	記(米指上)	年未詳12月21日	1通	殿谷槽原恒之→永瀬源作 極米米6俵指上		○
1	2	43	〔代金書付〕	年未詳1月7日	1通	安藤栄→永瀬御主人様	前欠	
1	2	44	〔金銭覚〕	年未詳9月8日	1通	寺崎平七代源助→堺屋源之助・同屋常八 〆1貫〔 〕		
1	2	45	仕切書	年未詳6月9日	1通	中川正治良→堺屋源之助 渋紺縮など 〆1貫670匁		○
1	2	46	〔もめん・まわた等書上〕	未詳	1通	かわたまへみせ→源作 もめん1丈7尺、他		
1	2	47	記(差引算用)	辰年9月	1通	早藤→永瀬 差引金48円50銭		
1	2	48	記(代銀書上)	未詳	1通	福光青竹1疋 760匁、他	後欠	
1	2	49	〔代銀書付覚〕	年未詳1月9日	1通	糺屋善兵衛→堺屋源之助 千草 〆702匁5分	前欠 (印)「京都 あけず通松原下 ル町 糺屋善兵衛」	
1	2	50	田地入札書抜	未詳	1通	円光寺村青木円吉 田6畝5歩 地価56円10銭		
1	2	51	〔覚〕	年未詳9月5日	1通	下むら彦兵衛→堺屋御店	本文欠	
1	2	52	〔仕立覚〕	未詳	1通	袖3寸5分仕立、丈4尺2寸仕立、紋三割むかふ梅、他		
1	2	53	覚(代金受取)	年未詳9月9日	1通	博多200匁 〆2円 受取		○
1	2	54	現金 西陣織物帯地類 広女帯 地井二九寸男帯るい	未詳	1枚	西京東洞院通蛸葉師下ル 組谷定七	帳簿の表紙	
1	2	55	〔人別代金書上〕	未詳	1枚	山根 越後1反 6円、他 〆8円41円5厘	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり	
1	2	56	〔人別代金書上〕	未詳	1枚	竹田 池田 博田9寸1本 4円、本山田や 高嶋1反 2円15銭など 〆16円6銭	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり	
1	2	57	〔人別代金書上〕	未詳	1枚	土井 めいせん5円50銭、他に正守	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり	
1	2	58	〔人別代金書上〕	未詳	1枚	土居新蔵カ 郡内1丈 1円90銭、他 合29円25銭	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり	
1	2	59	〔人別代金書上〕	未詳	1枚	寺田 にしき帯・朱子帯・博田帯、片岡 八丈 6円50銭、八反 2丈1 尺 1円47銭、他	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり	
1	2	60	〔人別代金書上〕	未詳	1枚	田辺氏 高嶋1反 2円20銭、原の表氏 奈良2丈 2円75銭、他	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり	
1	2	61	〔人別代金書上〕	未詳	1枚	延堂カ寺 神口 白浅 20銭、井口 奈良5尺 60銭、他	帳簿の断簡 抹消のしるしあり	
1	2	62	〔人別代金書上〕	未詳	1枚	小口 佐藤氏 奈良1反 3円40銭、延堂カ寺おもわ屋 安部屋1反 4円10銭、他 〆10円85銭	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり	
1	2	63	〔人別代金書上〕	未詳	1枚	矢吹 ろ1反 1銭70銭、口口 岸野 安部屋1反 90銭、他 〆211円62銭	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり	
1	2	64	〔人別代金書上〕	未詳	1枚	多吉 奈良3反 10円70銭、吉三郎 白浅1丈1尺 90銭、他に浅吉・ 井上など 〆215円23銭5厘	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり	
1	2	65	〔人別代金書上〕	未詳	1枚	福田屋16銭5厘、新宅70銭、他に米屋、土井など	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり	
1	2	66	〔人別代金書上〕	未詳	1枚	大戸 小方 奈良1丈7寸 22銭1厘、山手屋 奈良1丈9尺2寸 2円 47銭、他に新宅	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり	
1	2	67	〔人別代金書上〕	未詳	1枚	後松本 黄帯 8円50銭、7寸1本 1円70銭、他 〆41円14銭	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり	
1	2	68	〔人別代金書上〕	未詳	1枚	桜井 白浅1丈5尺 1円80銭、新町竹田 紺1反 3円80銭、他に中 嶋	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり	

1	2	69	〔代銀書上〕	未詳	1枚	小巾1反 335匁、他	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり	
1	2	70	〔代銀書上〕	未詳	1枚	小倉糸入2反 224匁、七寸博多4つ 641匁、浅黄郡内1疋 455匁、他	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり	
1	2	71	〔代銀書上〕	明治5年正月	1枚	御召10反 2貫200匁、郡内1疋 450匁、岸1疋 110匁、他	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり	
1	2	72	〔代銀書上〕	未詳	1枚	七寸小帯1本 145匁、広筑前1本 775匁、新織1本 360匁、他	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり	
1	2	73	〔代金書上〕	未詳	1枚	面仙袴2反 190匁、秩父1反 280匁、桐箱代12匁5分、他 ×16貫261匁5分、此金162両2分1朱1匁5分2厘、他	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり	
1	2	74	〔代金書上〕	戌3月5日	1枚	広博多1本 670匁、飯野羽織2反 金2両1歩2朱、他 差引3貫945匁5分	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり	
1	2	75	〔代金書上〕	申3月2日	1枚	申三月二日 岡山売分 千年嶋10反 1貫300匁、黒朱子1本 330匁、他 引×48両、三月二日、此分皆済	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり	
1	2	76	〔代金書上〕	未詳	1枚	広黒朱子1本 金5両3歩、御召衿 20両2歩、他	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり	
1	2	77	〔代銀書上〕	未詳	1枚	越後結キ1疋 915匁、京御召1疋 540匁、郡内1疋 510匁、他	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり	
1	2	78	〔代金書上〕	壬申(明治5)年7月	1枚	壬申七月益後 黒五帯1疋 660匁、秩父嶋3疋 615匁、黒八丈1疋 570匁、他 ×5貫785匁5分、此所へ金50両受取	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり	
1	2	79	品書覚	年未詳9月9日	1通	赤尾〔 〕 糸織1貫200目		○
1	2	80	〔永瀬源作宛森田口雄書状〕	年未詳1月22日	1通	田7畝15歩、地価61円50銭の地所借返しを主より申出につき、その証を御差し越しのこと。		○
1	2	81	おほへ(代銀書上)	年未詳9月9日	1通	藤田伊兵衛→米屋源作 金巾代など×1貫245匁	(印)「西京 五条通東洞院西 二入 金巾□□ 染地仕入所 藤田伊兵衛」	○
1	2	82	覚(代金受取)	年未詳1月9日	1通	布屋半治兵衛→上 ×74銭受取		○
1	2	83	判書	未詳	1通	金43円10銭 越後・郡内など	後欠	
1	2	84	〔代金書上〕	未詳	1枚	奈良晒1反 1両2朱、秋田1反 7両2分2朱、他	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり	
1	2	85	記(代金書付)	未詳	1枚	紺紫 金5円40銭	断簡	○
1	2	86	入日記	未詳	1枚	黒羽二重15匁	断簡	
1	2	87	覚(御召代)	未詳	1枚		断簡	
1	2	88	〔代銀書上〕	未詳	1枚	御召1疋 525匁、他	断簡	
1	2	89	〔書状断簡〕	年未詳1月13日	1枚	商人より御聞取のこと		
1	2	90	〔松木栄屋宛引削店書状〕	年未詳8月31日	1通	リンズ丈アヤ地、御依頼申上。	断簡	○
1	2	91	記	年未詳8月15日	1通	春江隠居→米屋源之介 御注文の通り渡すので御受取のこと。ほかに、2円指し上げるの で、極揃挽茶1斤半、御上京の節に御頼み申し上げること。	うまく剥がせず、原本残らず。 剥がす前の写真のみ。	○
2	1	1	通題	年未詳2月28日	1通	川辺藤 夏旅行、夕鷹狩 市場霞、他		○
2	1	2	〔東明兄宛松ろか書状〕	未詳	1通	大身を今日で止めた。水はみずに溜まるもの、人は善によるとか や。		○
2	1	3	〔橘右仲宛近江屋喜助書状〕	酉年7月20日	1通	大黃 13匁8分等、直段相働き差上ること。		○
2	1	4	〔曾我宇仲宛曾我我吾書状〕	年未詳5月18日	1通	了道様帰国のこと。御家内・御母上様へよろしくお伝えのこと。御 縁辺御取組にて、めでたきこと。	前欠	○
2	1	5	〔御旧病再発についての書状〕	未詳	1通	当境は右仲間偏であり、灸治を致されているとのこと。遠からず 罷出、御物語をしたい。	前欠、後欠	○
2	1	6	覚(薬種書付カ)	酉年	1通		後欠	○
2	1	7	〔北村正蔵宛辻井永三書状〕	年未詳10月	1通	貴酬申上	前欠(本文欠)	○
2	1	8	〔鐐の目利き願いの件〕	未詳	1通	この鐐は如何、火入りこなしの様に見えるので、目利き下されたい。 直段は如何ほどか。		
2	1	9	〔右仲様への御悦の伝言を頼む書状〕	未詳	1通	右仲様、御里へ御越しになられたら、どなた様へもよろしく仰せ下 されたきこと。	前欠、後欠。 女筆	○
2	1	10	〔書状〕	未詳	1通	所々馴染めも出来と相察す。加之者呼びおき、さぞ悦び申すとの 噂について。	前欠、後欠	○
2	1	11	〔書状断簡〕	未詳	1枚	節句は賑々しくしたい。	書状の文頭部分のみ	
2	1	12	〔橘右仲宛書状カ〕	未詳	1通	同9日夕、船橋様へ罷帰る。たけが永々逗留仕り、御葉を遣わさ れ、御陰で丈夫になったこと。	後欠	○
2	1	13	〔山太平・おたけ宛右仲書状〕	年月未詳29日	1通	しはん(襦袢)御指立て下されば、黒小袖も一所にほしい。今日は 河内より道具も参った。安産のみ案じ待ち兼ねている。お久への 御文めんとうなので、差し上げていないこと。	前欠、後欠	○
2	1	14	〔御さかつきの御祝についての書状〕	未詳	1通	およふ事、よろしく御祝申し上げるようと申し上げること。	前欠、後欠 女筆	○
2	1	15	〔雛祭についての書状〕	未詳	1通	雛祭に御馳走なされていると察する。くだらぬ雛を遣わしたので 御笑納のこと。船橋様にて初めの御節句を賑々しく御祝いな されて、めでたきこと。	前欠・後欠	
2	1	16	〔御礼などについての書状〕	未詳	1通	他に、お久が勝れざることについて。	前欠・後欠	
2	1	17	〔右仲宛山太平書状〕	年未詳3月22日	1通	和尚が勢州へ参られているので、帰られたら掛合のこと。3日より 持病にて引き込んでいます。お久が東蓮寺へ参ると申している が、差し留めていること。	前欠	○
2	1	18	〔覚〕	未詳	1通	をやばた二本、など	前欠	
2	1	19	〔御恩借仕りたきにつき書状〕	未詳	1通	甘松御届	前欠、後欠	○
2	1	20	〔辻井永三宛北村正蔵書状〕	年未詳2月20日	1通	初雛祭につき人形を下されたことの御礼。御保養旁伊勢参宮をさ れるのは、御満山しい。		○
2	1	21	〔処方箋書上〕	未詳	1通	藤助 当帰芍薬散、ちユ 甘連湯、仁介 瀉心湯、他		○
2	2	1	〔上棟大吉日書上〕	未詳	1通	宅主38歳 甲辰四緑星 上棟大吉日 5月21日 5月27日 5月 31日、他	破損	
2	2	2	〔地方税書付〕	未詳	1通	地方税15銭1厘、他に用水費反別わり、非常地方税など	欠損	
2	2	3	仮記(代金書上)	年未詳2月17日	1通	下むら忠兵衛→堺屋源三郎 木米沢1疋 17円85銭、岸小島2疋 15円75銭、他	(印)「関東呉服并染絹仕入 所〔 〕下むら忠兵衛 現 金札附」	
2	2	4	〔永瀬源作宛小川武八書状〕	年未詳1月11日	1通	可真下村和吉殿へ金80円取かへのこと。和吉殿は、金150円を1 月20日までに加勢してほしいというので、御へんじを下されたきこ と、他	中欠	
2	2	5	〔代銀算用書付〕	年未詳9月9日	1通	遠藤与七 代久七→永瀬源作 広島朱子カ 730匁など×4貫850匁	前欠	○

2	2	6	〔金銭書付〕	(明治)15年6月17日	1通	山岸佐兵衛→栄屋源作様御店 金35円18銭	前欠 (印)「越後柏崎 山佐」	
2	2	7	記(代金書上)	未詳	1通	千弉 絹上布羽織 4円46銭、千三 同 4円57銭、他	虫損、破損	
2	2	8	〔金銭受取覚〕	年未詳9月10日	1通	入江吉兵衛→永瀬 飯代・荷物代など 4円46銭受取	虫損	
2	2	9	〔松木永瀬源作宛金川武藤寿 三郎書状〕	年未詳1月12日	1通	○印預分の余り、去12月20日限り御戻しの筈のところ御越しなき につき、御返金のこと。		
2	2	10	〔代銀算用覚〕	年未詳9月1日	1通	堀口五平→堺源 4 1貫472匁、生糸代差引865匁	前欠	
2	2	11	売上記	未詳	1通	布小柄 360匁、298匁、他	下部欠	
2	2	12	記(代金書上)	未詳	1通	綿など 4 8反、代50円38銭	破損	
2	2	13	〔代金書上〕	未詳	1通	紺など6円70銭、6円50銭、他	帳簿の断簡	
2	2	14	〔代金書付〕	未詳	1枚	かさり屋 干草7反 234匁5分、北方武本氏 2両3分、など	帳簿の断簡	
2	2	15	〔金銭書上〕	未詳	1枚	382匁、388匁など	帳簿の断簡	
2	2	16	〔代金算用書付〕	未詳	1枚	合1379両1分2朱 7月迄 川友 綿 336匁、山舞 280匁など相渡	帳簿の断簡	
2	2	17	清瀬仏追善句集	未詳	1枚			
2	2	18	〔代金書上〕	年未詳6月17日	1枚	布屋事酒カ田五郎平→磐梨郡松木村栄屋源之介様店衆中共 浅黄1疋 837匁5分、こん1疋 892匁5分など、惣計62円8銭6厘、 引合、御入帳のこと。	帳簿の断簡	
2	2	19	〔代金書上〕	年未詳3月18日	1枚	山の上石堂屋喜四郎、朱子など 2両3分3朱、中山隣 博田帯 4 両2分、喜藤治 博田帯代5両	帳簿の断簡 墨で抹消のしあり	
2	2	20	〔代金入帳願〕	明治15年6月1日	1通	松居庄治郎→永瀬源口 天明花色、奈良晒など 4 73円74銭、御入帳願い	(印)「西京 蛸薬師烏丸西江 入 松居庄治郎」 虫損、破損	
2	2	21	〔代銀書上〕	未詳	1枚	布大柄取合7疋、他	帳簿の断簡	
2	2	22	〔代金書付〕	未詳	1枚	是里 清五郎様 岸1反 2両2分2朱、小もん2尺 5匁、他	帳簿の断簡 墨で抹消のしあり	
2	2	23	記(代銀書上)	未詳	1通	紅紫分糸 132匁、他	破損	
2	2	24	記(代金算用)	明治13年9月6日	1通	市田店→堺屋源之助 綿山田10疋 47円57銭、博田7寸2本 6円60銭他、4 83円64銭	(印)「現金札附 呉服 物〔 〕仕入所〔 〕高倉西江入町 市田店」	
2	2	25	〔代金書付〕	未詳	1枚	矢口様 紅梅2文2尺 1両2分2朱、襟1つ 1分2朱5匁、他。梶川 様 干草1反 46匁、他	帳簿の断簡 墨で抹消のしあり	
2	2	26	〔記帳願〕	明治15年6月16日	1枚	辻平三郎→永瀬源作 引合、御記帳願上	帳簿の断簡	
2	2	27	〔書付〕	未詳	1枚	〔 〕清平→永瀬源作	帳簿の断簡 破損	
2	2	28	〔代銀書上〕	未詳	1枚	布大柄6疋 718匁、650匁、他	点の断簡	
2	2	29	〔代金書付〕	未詳	1枚	是里 近藤氏様 綾1反 1両1分、小倉1本 3分3朱、他 黒本 昨助様 綾1丈 55匁	帳簿の断簡 墨で抹消のしあり	
2	2	30	〔代金覚〕	(明治)15年6月17日	1枚	西中島町吉野屋作五郎方越後関矢源兵衛→松木栄屋源作 金77円59銭2厘願上 他に、紺しまなど 4 14反 94円45銭	帳簿の断簡	
2	2	31	品価書	明治15年9月26日	1通	松居庄治郎→永瀬源作 秩父9疋 4貫885匁、郡内2疋 1貫510匁他、4 金164円	(印)「西京 蛸薬師道烏丸西 江入 松居庄治郎」	
2	2	32	品価記	年未詳12月6日	1通	田中利三郎→備前永瀬源作 黒朱子9寸2本 570匁、紅梅郡中1本 300匁他、4 2貫90匁	(印)「西京 万寿寺烏丸西入 西陣織物仕入所 田中利三 郎」	
2	2	33	品価記	明治15年旧12月7日	1通	松居庄治郎→永瀬源作 金山10反 11円50銭、太物1疋 3円40銭、文庫代10銭、他、4 24 円71銭	(印)「西京 蛸薬師道烏丸西 江入 松居庄治郎」	
2	2	34	〔代銀書付〕	年未詳11月23日	1枚	襟地 4匁	帳簿の断簡	
2	2	35	仕切書	年未詳9月8日	1枚	田中利三郎→松木永瀬源作・常八 反物代カ 4 2貫260匁、差引残3貫匁	(印)「西京 万寿寺烏丸西入 西陣織物仕入所 田中利三 郎」 虫損	
2	2	36	〔代銀書付〕	未詳	1枚	仁十郎様 岸1丈 90匁、他	帳簿の断簡 墨で抹消のしあり	
2	2	37	〔代金覚〕	明治13年9月20日	1通	峰上太平 代真治郎→堺屋 裾除代カ他 4 4円20銭	虫損、破損	
2	2	38	〔代金書上〕	未詳	1枚	博田・仕立文庫代など 4 115円71銭	帳簿の断簡 虫損 剥がせず、くっついたままの 部分がある。	
2	2	39	〔代金書上〕	未詳	1枚	布代カ	帳簿の断簡	
2	2	40	〔金銭書上〕	未詳	1枚		帳簿の断簡	
2	2	41	〔代銀書上〕	未詳	1枚	仕立文庫代など 4 3貫214匁	帳簿の断簡	
2	2	42	〔代金書付〕	明治14年6月17日	1枚	越後柏崎地田屋〔 〕→永瀬源作・常八カ	帳簿の断簡	
2	2	43	品価誌	未詳	1枚	嶋代など書上、正味金124円80銭	帳簿の断簡	
2	2	44	記(代金書上)	未詳	1枚	絹代4円42銭他、書上	帳簿の断簡	
2	2	45	〔代銀書上〕	未詳	1枚	反物代など	帳簿の断簡	
2	2	46	〔代銀書上〕	未詳	1枚		帳簿の断簡	
2	2	47	売上証	未詳	1枚	晒2疋 648匁、小柄取合35反、他	帳簿の断簡	
2	2	48	御仕切	未詳	1枚	越後結城綿	帳簿の断簡	
2	2	49	覚(代銀書付)	未詳	1通	井筒屋茂兵衛→栄屋源之助 3貫190匁 綿南部取合10反・上州本糸織、他	帳簿の断簡	
2	2	50	〔清瀬仏追善句集〕	未詳	1枚		欠損	
2	2	51	〔代金覚〕	明治15年8月	1通	□□清平→永瀬源助 4 金191円75銭	帳簿の断簡	
2	2	52	入日記	未詳	1通	弓削氏 帯 15匁5分、安藤 縮面1反 52匁、神坂 越後帷子 25匁、 他	後欠	
2	2	53	〔代金覚・書状類〕	明治14年	1まとめ	記(明治14年、内貴清兵衛→栄屋源之助、白南部2疋 1貫40目、 本米沢1疋 1貫780目、他、4 11貫511匁) 〔永瀬宛井上書状〕(入用物出来るにつき、両日の内に御持参下 されたきこと)	剥がせずくっついたまま 破 損 (印)「京東洞院御池上ル 現 金正札付附仕入所 内貴清兵 衛」	
2	2	54	〔代銀覚〕	未詳	1通	山田市次郎 本南部 2貫75匁、他、4 13貫目	虫損 (印)「京都仕入所 西陣織物 類 関東呉服類 染物〔 〕類 室町五條上ル町 山田市次 郎」	

2	2	55	〔代金書付〕	年未詳9月6日	1枚	〔 〕一堺屋源蔵 岸嶋・文庫代など 80円60銭	帳簿の断簡 差出人の印が薄くて見えず	
2	2	56	〔代金書付〕	未詳	1枚	大柄 48円1銭	帳簿の断簡	
2	2	57	〔入帳願〕	年未詳10月14日	1通	西羽善兵衛→永瀬源作 御改め入帳のこと	前欠	
2	2	58	仕切	未詳	1枚	仕切 印(現金札附五掛正味)	断簡	
2	2	59	覚(糸代)	未詳	1枚	糸代104匁	断簡	
2	2	60	〔代金書付〕	未詳	1枚	浅小もん 40匁、重掛代不足3両2朱、他	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり	
2	2	61	〔代金書付〕	未詳	1枚	6両1分2朱 残り2両過、2月18日渡	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり	
2	2	62	〔代銀書付〕	未詳	1枚	板 8・小もん代など、 52匁5分	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり	
2	2	63	〔代銀書付〕	未詳	1枚	鹿の子 25匁、他	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり	
2	2	64	〔代銀書付〕	未詳	1枚	白麻4尺 34匁4分、襟 30匁、他	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり	
2	2	65	〔代銀書上〕	未詳	1枚		帳簿の断簡	
2	2	66	〔書状断簡〕	年未詳12月13日	1枚	依頼の件。全快次第、周匠まで罷出		
3	1	1	覚(書状受取)	年未詳正月19日	1通	とさや久兵衛→土州御屋敷様 書状1通受取		
3	1	2	覚(代銀算用)	年未詳6月6日	1通	節屋太兵衛→上州慶蔵 鐸代など 12匁3分、正広代51匁5分、差引12匁2分		○
3	1	3	薬種通	戌年	1枚	沢上口屋小三郎→橋右仲	帳簿の表紙	
3	1	4	口上	未詳	1通	御医者様 傘1本、御米つき衆 下駄1足、歳暮進上		○
3	1	5	覚(銀子受取)	未詳	1通	銀22貫783匁4分7厘5毛受取	墨で抹消のしるしあり	
3	1	6	〔橋右仲宛北村正三書状〕	年未詳2月17日	1通	北村正三→橋右仲 お久様、御快方のこと。正蔵が参り御世話のこと。お菓子をいただいた御礼。淀植様への書状は、翌日早速お届けしたこと。		○
3	1	7	差上カ	亥年11月11日	1通	沖船頭藤吉他1名→御船手方御役人 六端帆船頭船主八人乗 野地出 鉄之介船 御米積登り、今日入津仕るにつき御届。		
3	1	8	〔仕送覚〕	年未詳7月2日	1通	鴻池屋庄兵衛→口蔵御仕送方御役所 受取、江戸御屋敷様へ進上	前欠	
3	1	9	〔慶蔵宛与右衛門書状〕	年未詳3月23日	1通	冠辞考借用の件	破損	
3	1	10	〔急入用につき依頼状〕	年月未詳5日	1通	すかね(カ)の汁1升5合を調べてほしい	後欠	
3	1	11	〔下代類慶蔵宛鳥見方太六書状〕	年未詳5月13日	1通	節句の時分、到来の品の御礼。	前欠	
3	1	12	〔春木慶蔵宛森本永助カ書状〕	年未詳4月15日	1通	小野丈八へは愚札を差し上げないので、御序での節、御頼み申上。	本文欠	
3	1	13	〔刀剣図解〕	未詳	1枚	刀剣の南極星・北極星の図、正宗についての記述あり。		
3	1	14	〔腫物・金瘡など治療法〕	未詳	1枚		下部破損	
3	1	15	〔掛込覚〕	未詳	1通	掛込 1両 初 二 3分、他	破損	
3	1	16	〔書付断簡〕	未詳	1枚	金13口、銀105匁引		
3	1	17	〔書状断簡〕	年未詳12月24日	1枚	大津屋九兵衛→土州御役所		
3	1	18	覚(銭買請代銀上納のこと)	寅年12月24日	1通	高岡屋勘右衛門→御役所 銭1貫文につき代銀9匁4分1毛		
3	1	19	覚(銭買請代銀上納のこと)	寅年12月24日	1通	高岡屋勘右衛門→御役所 銭1貫文につき代銀9匁4分5厘2カ毛		○
3	1	20	〔斎藤幾助他二名宛早口書状〕	年未詳12月21日	1通	早口→斎藤幾助・高橋幸助・本井惣四郎 有進上	前欠	
3	1	21	〔雑記〕	未詳	1枚	菌、前九年・後三年、他	破損	
3	1	22	口上	未詳	1通	御病氣につき針差し上げのこと	破損、後欠	
3	1	23	〔塩見氏御来光についての書状〕	年未詳17日	1通		下部欠損	○
3	1	24	覚(薬種代銀)	戌年3月19日	1通	近江屋喜助→橋右仲 生干葛・葛根・唐大黃など 34匁8分	後欠	○
3	1	25	〔治療法〕	未詳	1枚	月経不通・産後悪血・破傷風など		
3	1	26	〔書付断簡〕	未詳	1枚	口仲様 たはこや清左衛門、口文 御飯2人様御酒共		
3	1	27	〔代銀覚〕	年未詳11月	1通	忠右衛門→右仲 半紙3束 3匁5分	破損、前欠	
3	1	28	〔御銀積書について覚〕	未詳	1枚	御銀積書を御渡し、去年の分の銀子は返上。	断簡	
3	1	29	〔長箱・文五郎の便り指越すにつき書状〕	未詳	1通	宿元より長箱・文五郎便りを其御表まで指越しお世話になったこと。私は、御帰国御道中筋御歩行かり勤めを仰せ付けられた。	後欠	
3	1	30	覚(銭買請)	未詳	1通	銭1貫文 代銀9匁4分3厘2毛	後欠	
3	1	31	覚(薬種の依頼)	年月未詳25日	1通	正三→橋右仲 大黃1斤、桂枝1斤		○
3	1	32	〔橋右中書状〕	年未詳12月	1通	御謝儀の御礼	前欠	
3	1	33	〔婦人科処方箋〕	未詳	1枚	難産のときの処方箋	後欠、破損	
3	1	34	〔書状断簡〕	未詳	1枚	直段25匁調えること。かつを・薬類・ちり紙、もし美濃紙があれば1、2枚もらいたいこと、他		○
3	1	35	口上	未詳	1通	鴻池庄兵衛→土州御仕送方御役所 吉舟千〔百カ〕五拾俵 但し、540石25俵、切手54枚 切手御調印のこと		
3	1	36	〔歯痛・舌腫など治療法〕	未詳	1枚		前欠	
3	1	37	〔書状断簡〕	未詳	1枚	御風で御氣の毒のこと。正蔵について、他		
3	1	38	〔橋右仲宛書状〕	年未詳2月18日	1通	御注文につき取り揃えて御使へ渡した。甘草1斤は、くさりなしてよろしきものなので、直段は少し高値であること、他	前欠、破損	○
3	1	39	〔口中処方箋〕	未詳	1枚	口中万病二用妙方	後欠、下部欠損	
3	1	40	〔慶蔵宛春木直蔵書状〕	年月未詳13日	1通	家中の者へもよろしく	本文欠、上部欠損	○
3	1	41	紙之通	西正月	1枚	越後屋忠右衛門→橋右仲	表紙のみ 3-1-41と3-1-42は一連のもの	
3	1	42	紙之通	西正月	1枚	越後屋忠右衛門→橋右仲	表紙のみ 3-1-41と3-1-42は一連のもの	
3	1	43	〔書付〕	未詳	1通	橋右仲	下部欠損	

3	1	44	〔商売についての書付〕	未詳	1通	手狭くなると船の者の拒みになるかと思われる。奥の小間屋もあり決まりがあれば、売主狭く、荷主の為にならぬと思われる、など。		
3	1	45	〔書付断簡〕	天明年間	1枚			
3	1	46	〔書状断簡〕	未詳	1枚	右中→永三		
3	1	47	〔狂歌書付〕	未詳	1枚	ひんかしのあつまの国にもの学はんとて刈谷季恭かいかんとするとき、松吉の東風魚かうかひ出てうたふ	後欠	
3	1	48	〔書付〕	年未詳7月21日	1通	四番村宇忠様 たるや久兵衛 7月21日 24匁 手桶、他 〆48匁	後欠	
3	1	49	〔書付〕	未詳	1通	廿六日出ル 御口リ 野助・銀左衛門・甚太、他		
3	1	50	〔包紙カ〕	未詳	1枚	〔 〕様 松村太助	上部欠損	
3	1	51	〔包紙〕	未詳	1枚	〔 〕御用方慶蔵様 鈴木八次	破損	
3	1	52	〔書状断簡〕	未詳	1枚			
3	1	53	〔語句書付〕	未詳	1通	「アワや喉ザタナラ舌ニカ牙サ歯音ハマノツハ唇ノ軽重」他		○
3	1	54	〔包紙〕	未詳	1枚	御祝儀 橋右仲カ	破損	
3	1	55	〔文字書付〕	未詳	1枚	玉 忠四郎	断簡	
3	1	56	酉極月指引残	酉年12月	1通		後欠	
3	1	57	〔書付断簡〕	未詳	1枚	〆760目2分8口、他		
3	1	58	〔書付断簡〕	年未詳12月5日	1枚	炭屋善五郎		
3	2	1	〔覚〕(算用書付)	年未詳1月9日	1通	田畑茂兵衛→永瀬源作 14貫420匁 9月分 〆高 差引残り4貫420匁		
3	2	2	記(元利差引算用)	未詳	1通	488円99銭5厘 〆高 元利差引 〆4円71銭	虫損	
3	2	3	証(代金請取)	未詳	1通	下村瓦師弥六→松木村源作 半・丸など 〆60枚 代45銭		
3	2	4	覚(金銭請取)	(明治)12年12月6日	1通	中川弥兵衛 代理内貴店→栄屋源之助 金2円75銭請取	(印)「京都東洞院御池上町内貴店」	
3	2	5	リン病妙薬	未詳	1通	大連・黄連などの調合、服用方法		
3	2	6	記(仕切代金相渡)	年未詳1月9日	1通	清水半店→長瀬 〆14円84銭8厘		
3	2	7	判書	明治14年2月19日	1通	吉田十兵衛→永瀬御店 色朱子4本 23円10銭	(印)「西都 現金正札附 西陣織物類 室町三条下ル 吉田十兵衛」	
3	2	8	覚(代銀書付)	明治12年12月6日	1通	内貴清兵衛→栄屋源之介 本博多・博多黄など 〆2貫945匁	(印)「京都東洞院御池上町 内貴清兵衛 呉服正札附仕入所」	
3	2	9	仕切書	未詳	1通	武州平 8円75銭、吉野織 7円40銭、他	後欠	
3	2	10	仮記(代金書付)	年未詳9月3日	1通	下むら忠兵衛→堺屋源三郎 琥珀・岸小嶋・仕立文庫代など 〆72円77銭	(印)「現金札附 関東呉服并染絹仕入所 京からす丸六条下ル 下むら忠兵衛」	
3	2	11	記(宿泊代)	年未詳1月19日	1通	□□屋→永瀬 御泊り・わらち代・にしめ代など 〆2円51銭8厘		
3	2	12	〔反物数量書上〕	未詳	1通	かすり2疋、博多帯5、6本、南部5、6反、他		
3	2	13	〔受取覚〕	酉年9月6日	1通	大阪〔 〕→堺屋源之助	前欠、本文なし	
3	2	14	〔書付断簡〕	年未詳9月4日	1枚	下むら彦兵衛→堺屋	前欠、本文なし (印)「呉服 京都東洞院西光寺北入 西陣織物仕入所 下むら彦兵衛」	
3	2	15	〔代銀覚〕	明治15年1月7日	1通	谷利茂助→永瀬源作 紅入無紅、金ばら入など 〆9貫680匁	前欠	
3	2	16	〔まつき永瀬源作宛櫛原恒吉書状〕	年未詳8月6日	1通	此分、この人へ御渡し下されたきこと。	前欠 書状の末に「殿谷 櫛原常太郎」とあり	
3	2	17	記(御越し願)	年未詳12月23日	1通	周匠村荒木弥吉→松木村永瀬 上々出も6尺2寸 この人へ御越し下されたきこと。	破損	
3	2	18	記(紙包み御渡し願)	巳年7月7日	1通	永瀬源作→川田治郎平・水田源五 京都よりの紙包み1つ、この者へ御渡し下されたきこと。	(印)「備前 松木 永瀬源作」	
3	2	19	記(元利算用)	年月未詳16日	1通	川田原 甚太郎→松木村永瀬源作 元利残り80円80銭		
3	2	20	〔代金覚〕	年未詳9月1日	1通	石原房→長瀬 〆817匁 金8円17銭	前欠 (印)「京都岩上通四条南 呉服仕入所 染物悉皆 石原房」	
3	2	21	〔覚〕	未詳	1通	西羽善兵衛→永瀬源作 右の通り出来たので、御送りすること。	前欠	
3	2	22	証(代金書付)	年未詳9月6日	1通	平野平兵衛→岡村 洋朱子 39円、品物相渡す。		
3	2	23	〔代銀覚〕	年未詳9月2日	1通	長野与兵衛・甚七→永瀬源作 西陣龍上下など 〆854匁	前欠	
3	2	24	記(代銀書付)	明治15年1月8日	1通	京都長野与兵衛・甚七→永瀬源作 西陣竜上下 330匁 出来の上、西羽善兵衛より差出す。		
3	2	25	覚(代金受取)	未詳	1通	青木善助→堺屋源之助 代金1円50銭受取	上部破損	
3	2	26	〔代金差引覚〕	(明治)14年2月14日	1通	竹田幾太郎→永瀬源作 惣差引4円57銭5厘 過金	前欠	
3	2	27	〔算用覚〕	年未詳12月6日	1通	〔 〕→堺屋源三郎 銀金など 〆60円84銭	前欠 (印)「現金札附 関東呉服類〔 〕仕入所〔 〕」	
3	2	28	〔川舟貢覚〕	(明治)12年12月11日	1通	西大寺油勝→河田坂口屋・松木栄屋源作・万屋兵吉 時計・黒布包など 〆7箇 川舟貢、福島よりの船貢 〆37銭5厘御渡し願ひ。	前欠 (印)「東備州西大寺 油屋勝之甫」	
3	2	29	覚(代金受取)	年未詳9月6日	1通	入江吉兵衛→永瀬源作御両人(源作・常八) 泊宿代・荷物・汽車貢など 〆6円53銭	(印)「〔 〕不明門」	
3	2	30	証(代銀算用)	年未詳9月2日	1通	遠藤与七→永瀬源作 広2本など 〆2貫684匁 差引184匁	(印)「〔 〕師堺町西入 遠藤」	
3	2	31	覚(代金受取)	年未詳9月7日	1通	多田徳→永瀬源作 宿泊代・車代など 〆83銭	(印)「金銀不用 大阪大川町西〔 〕多田徳」	

3	2	32	記(代金入手のこと)	年未詳9月8日	1通	岡山河田本店→永瀬カ 大阪より汽船など 〆3円	破損	
3	2	33	品数記	年未詳9月1日	1通	竹田幾太郎→永瀬源作 岸編 2疋、郡内 4疋、越後結キ 3疋、他	虫損	
3	2	34	〔覚〕(代銀御渡し願ひ)	巳年7月17日	1通	永瀬源作→尾谷参郎カ はり金200目、大針10本など、この者へ御渡し下されたきこと。	前欠 (印)「備前松木 永瀬源作」	
3	2	35	入日記	未詳	1通	縮面 235匁、奉書 拾 70匁、飛田 70匁、他	後欠	
3	2	36	〔代金受取〕	年未詳9月5日	1通	京烏丸松原北入 奈良武→栄屋御店 細引1筋、荷作9箇など 〆金9円45銭5厘	前欠	
3	2	37	〔栄屋源作宛貞永寺村桜井書状〕	(明治)14年9月23日	1通	金の廻り合わせがなく、この頃までに武蔵屋へ送り、金6円は御渡しするが、残金は10月まで御待ち下されたきこと。		
3	2	38	記(入費書付)	年未詳8月16日	1通	はし本や→栄屋 御泊り19人、したく2人様、津山より駄賃など 〆7円10銭8厘		
3	2	39	覚(代金書付)	年未詳9月4日	1通	喜多川源兵衛代源介→永瀬源作 〆2貫900目 此金29円	虫損 (印)「京四・六角・□□西」	
3	2	40	証(代金書付)	年未詳12月7日	1通	蟻井ふさ 〆3貫465匁 外に1貫815匁 万屋様分 合 〆7貫80匁	破損 (印)「京都五条通烏丸西入 ありいふさ 西陣物仕入所」	
3	2	41	現金諸品御通 永瀬源作様	明治13年4月	1枚	さとう・石筆・くわし代など	冊子の断簡 破損 (印)「備前磐梨松木 口屋」	
3	2	42	記(反物代算用)	年未詳1月5日	1通	日野方→栄屋源之助 桔梗など 〆2貫722匁5分		
3	2	43	〔永瀬様宛永瀬常八書状〕	辰年1月13日	1通	坪江二而永瀬常八→永瀬様 拙義、兩人ともに無事に暮らしている。12月12日米子出立、堺、美保間渡り、トノエ村にて6日掛かり、当月11日に米子・坪江へ帰った。南方田地売払いの件について。今川・武藤氏へは、当月末までに払金仕る考えである。旧28、29日までに帰宅したいこと。		
3	2	44	〔永瀬源作宛岡村次三郎書状〕	年未詳8月22日	1通	当月27、28日頃に出京致す積りである。君様、近日上京なされるようなら、出立日限を御知らせ下されたきこと。	破損、中間部欠 (書状上書)「磐梨松木村 永瀬源作様 火急用口」 (書状裏書)「仲村 岡村次三郎 第八月廿二日」	
3	2	45	〔永瀬源作宛小橋平四郎書状〕	年未詳1月24日	1通	娘おしけが病気で気のぼせ致し、心配している。生野様へ御相談願上のこと。貴殿の御帰りが難しければ、周匝村塩田屋へ御申し遣すこと。	後欠	
3	2	46	覚(代金請取)	年未詳9月4日	1通	蛭子五兵衛→堺源 絹糸 519匁2分、服紗59匁、他 〆1貫242匁2分、此金12円42銭2厘		
3	2	47	〔永瀬源作宛富力屋利平書状〕	年未詳1月22日	1通	南方米11俵、12月3度請取につき御承引のこと。	前部・後部 破損	
3	2	48	〔永瀬源作宛辻平三郎・大橋清平書状〕	未詳	1通	過月来、御来車に預かった。尊君様は、安価に仕るよう御願申上、ところがその後、備中地へ参り品売り捌き、本日は上国仕るところに通達に預り、困心している。買取の件について。旧7月15、16日ごろに御伺い、御相談申上のこと。	中間部欠	
3	2	49	〔人別代金書付〕	未詳	1枚	山本 3円60銭、杉本 越後 5円70銭、他	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり	
3	2	50	〔人別代金書付〕	未詳	1枚	日笠氏 朱子帯 8円、安本 3円20銭、他	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり	
3	2	51	〔人別代金書付〕	未詳	1枚	塩屋 5円、他	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり	
3	2	52	〔人別代金書付〕	未詳	1枚	本片岡 7円40銭、延岡 39銭、他	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり	
3	2	53	〔人別代金書付〕	未詳	1枚	かま屋 1円70銭、片山氏 70銭、多吉 2円、他	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり	
3	2	54	〔人別代金書付〕	未詳	1枚	栄吉 48銭、植野氏 4円45銭、他	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり	
3	2	55	〔人別代金書付〕	未詳	1枚	富沢屋 5円40銭、沢屋 6円20銭、新宅 3円90銭、他	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり	
3	2	56	〔人別代金書付〕	未詳	1枚	阿曾屋カ 2円50銭、他	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり	
3	2	57	〔人別代金書付〕	未詳	1枚	平野 14円、塚本 2円10銭、他	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり	
3	2	58	〔人別代金書付〕	未詳	1枚	枝光氏 13円、源吉 4円、他	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり	
3	2	59	〔人別代金書付〕	未詳	1枚	岩本 5円40銭、大西 2円70銭、他	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり	
3	2	60	〔人別代金書付〕	未詳	1枚	早太 42銭、仲三 1円60銭、他	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり	
3	2	61	〔人別代金書付〕	未詳	1枚	万代 1円25銭、角南 4円、他	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり	

3	2	62	〔人別代金書付〕	未詳	1枚	八藤 85銭、早川90銭、他	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり	
3	2	63	〔代銀書付類〕	未詳	1まとめ	日野方から栄屋宛の記(代銀書付)…桔梗など ⅴ1貫480匁 組谷定七から永瀬源之助宛の代銀書付カ	剥がれず、つながった状態 (印)「西京 東洞院通辨業師 〔 〕帯地類 組谷定七」	
3	2	64	〔人別代金書付〕	未詳	1枚	新山 ちりめん 19円、片山 1円60銭、日笠氏 2円、他	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり	
3	2	65	魚御通	未詳	1枚	シン 圭治→松木村栄屋 ゑひ・かき・もが、など ⅴ1円36銭、他	帳簿の断簡 破損	
3	2	66	〔書状断簡〕	年未詳9月3日	1枚	高山孫助→永瀬源作		
3	2	67	〔金銭受取覚〕	巳年8月7日	1通	栄屋源作 金22円受取	前欠、後欠	
3	2	68	〔書状断簡〕	年未詳12月21日	1枚	水田源吾→松木村永瀬様	(印)「水田正明」	
3	2	69	記(代銀書付)	未詳	1通	7寸 2本 444匁、他	後欠	
3	2	70	品直	未詳	1通	白緞子1本 330	後欠	
3	2	71	記(代銀書付)	未詳	1通	相鼠上代 半襟 315匁、他	後欠	
3	2	72	記(代銀書付)	未詳	1通	縮面1貫300匁、他	後欠	
3	2	73	〔愚父留守中につき書状〕	年未詳12月25日	1通	愚父は今朝出岡にて留守中につき、帰宅の上、御記載の趣を申 談のこと。	前欠、後欠	
3	2	74	〔書付断簡〕	年未詳8月31日	1通	井上店→中瀬源蔵		
3	2	75	〔算用書付〕	酉年	1枚	売揚 2004円25銭、水揚 322両2歩2朱、仕入 149貫、他	帳簿の断簡 破損	
3	2	76	〔算用書付〕	午年	1枚	売揚 233貫754匁、水揚 46貫930目6分	帳簿の断簡 破損	
3	2	77	〔代銀書付類〕	未年	1まとめ	算用書付…未年入用22貫68分6厘、仕入163貫575匁、他 記(代金算用)…栄屋→徳三、ⅴ1521円、米代など差引残り9円 88銭	糊が剥がれず、つながった 状態	
3	2	78	〔代銀書付類〕	未詳	1まとめ	〔永瀬源作宛森田憲雄書状〕…岡野君御苦勞相成、是非とも御目 に懸りたいので、御來車願ひ。 〔人別代金書付〕…小川 3円75銭、新谷屋 6円30銭、他	糊が剥がれず、つながった 状態	
3	2	79	〔代銀書付類〕	未詳	1まとめ	記(代銀書付)…桔梗など ⅴ1貫780匁 記(代金書付)…永瀬源作→和氣 ⅴ金28銭 〔戌年算用書付〕…売揚 2433円、水揚 405円10銭1厘、他	糊が剥がれず、つながった 状態	
4	1	1	覚(薬種代請取)	未詳	1通	四番村右仲→薬屋文右衛門 甘草・白からし代 ⅴ1匁2分5厘		
4	1	2	覚(銀30目受取)	酉年7月13日	1通	沢上口屋小三郎→橋右仲		
4	1	3	〔代銀受取覚〕	酉年7月	1通	守屋武兵衛→六四ばん宇仲 割たばこ500目、不足代 ⅴ7匁6分		
4	1	4	覚(代銀書付)	酉年11月25日	1通	佐屋カ庄右衛門→橋右仲 本さつま 12匁5分		
4	1	5	覚(小刀代)	酉年12月27日	1通	河内屋吉兵衛→右中 酉9月分 小刀1本 2匁5分 12月27日相渡す		
4	1	6	覚(代銀書付)	年未詳9月11日	1通	越忠→橋右仲 浅黄 3匁		
4	1	7	〔残銀受取覚〕	酉年7月	1通	かじ村四郎右衛門→四番村宇忠 残り 3匁7分		
4	1	8	〔薬種書付〕	未詳	1通	浪痰丸など		
4	1	9	〔書付断簡〕	未詳	1枚	題「歳旦」の和歌	下部欠	
4	1	10	〔彦助分代銀書付〕	未詳	1通	龍門 5分、木綿 2分、他	前欠、後欠 破損	
4	1	11	〔書付断簡〕	未詳	1枚	「正三三口糸にてさめ四六八十口も過て極の老人…」	破損	
4	1	12	〔治療法書付断簡〕	未詳	1枚	「便毒」など		
4	1	13	〔治療法書付断簡〕	未詳	1枚	「便毒」の続き		
4	1	14	〔治療法書付断簡〕	未詳	1枚	「所嚙犬馬鼠」「折挫」など		
4	1	15	〔治療法書付断簡〕	未詳	1枚	「水瘡小瘡」「下疳」など		
4	1	16	〔右仲宛山太平書状〕	年未詳9月5日	1通	半五郎が帰りの節、御頼みの品があるので、請取り帰してくれるよ うにと頼み違わしたことを。	前欠	
4	1	17	〔銀包など受取覚〕	年未詳7月	1通	橋右仲(留守)→口門	前欠	
4	1	18	〔右仲宛山太平書状〕	年未詳9月4日	1通	原田屋伊助という者が参り、右の品急ぎ調えたきことについて。 玄達業はきかめと申すので、産前後の業をも違わしてほしいこ と。	前欠	
4	1	19	〔山太平・栄八郎書状〕	年未詳6月11日	1通	砲術が、明後13日に大橋河原で執行される。川澄氏も参り、永蔵 殿も御同伴のこと。	前欠	
4	1	20	〔右仲より品物依頼についての書状〕	年未詳9月5日	1通	橋右仲というのは、拙者の末の娘を遣し婿である。この度、大坂 へ引越し、居所は中橋筋本町の堀元厚という医者をお尋ねのこと。 河内屋と次兵衛への書状も、右仲方への書状を封込頼み違 わした。与次兵衛への状も封を開き、右仲方への書状と一所に届 けている。右仲より其元へ二品か三品少々物の物を頼むので、御 請取御帰り下されたきこと。		
4	1	21	〔書付断簡〕	未詳	1枚	「高き世の事を高き候…」		
4	1	22	〔書付断簡〕	未詳	1枚	「一筆啓上仕候、先以…」		
4	1	23	〔篆書断簡〕	未詳	1枚			
4	1	24	〔和歌書付断簡〕	未詳	1枚			
4	1	25	〔紙代算用書付断簡〕	未詳	1枚		帳簿の断簡	
4	1	26	〔御祝儀につき御悦びの書状〕	未詳	1通	吉辰につきお久事、御引取御祝儀が首尾よく整ったこと。	後欠 破損	
4	1	27	〔お久の病状に関する書状〕	未詳	1通	お久の熱気が止まず、喉より舌まで腫れて難儀しているので、石 川玄達へ薬を頼んだこと。下坂の勘、御頼み申上げた品につい て。		
4	1	28	〔治療法書付〕	未詳	1枚	瘍腫・疔・癰疽など		

4	1	29	〔御礼の伝達を願う書状〕	未詳	1通	船橋よりの鶏卵は寒中見舞であるので、かたじけなく受納した。貴君より御礼を伝えてもらいたいこと。	前欠・後欠	
4	1	30	〔狂歌書付〕	未詳	1通		前欠 訂正あり	
4	1	31	〔右仲宛書状〕	年未詳9月5日	1通	上田や半五郎が今晚其おもてへ下り、明後日帰るので、御事つて下されることについて。	前欠	
4	1	32	〔御願いの件についての書状〕	未詳	1通	ゑんたん(縁談)の事、いろいろかれこれ致したが相きわめ申す。先日は仕直し物を御願ひし御せわになった。紙類(杉原・半紙など)を御願ひしたいので、御とのへ置き下されたら、伊介にても取りに遣わすこと。鯉ふしは、此方でとのへること、他	前欠 後欠 破損	
4	1	33	〔御悦びにつき書状〕	未詳	1通	唯右衛門が帰った。御そもし様もかくへつ御ひたちの由、安心し悦び入ること。天気であれば、御同道にて御出になりうれしく思っただろうが、折悪しく雨天であった、他。	後欠 中間部欠 破損	
4	1	34	〔右仲宛文緒カ書状〕	年未詳2月18日	1通	幕内寺へ参りたいが、見合せて参上のこと。代匠記注書は全部拝借仰せ付けられたきこと。御令室様へもよろしく御伝へのこと。	前欠	
4	1	35	〔治療法書付断簡〕	未詳	1枚	三十年来の風癩ヲ治、小児秘結スルヲ治、吐血不止者治、他	破損	
4	1	36	〔治療法書付断簡〕	未詳	1枚	腫物について。		
4	1	37	〔橋右仲宛書状〕	未詳	1通	尚々書に、先日初めて拝顔し、川澄氏帰淀の上、私宅へ参り物語をしたことが記される。	本文欠	
4	1	38	〔篆書断簡〕	未詳	1枚			
4	1	39	〔書状断簡〕	未詳	1枚	(上書)「河州大番(庭か)四番村橋右仲様 大和屋太助 用書」可道禪師御出馬につき一筆啓上…		
4	1	40	〔書付断簡〕	未詳	1枚	「船橋村役 … 貳通」		
4	1	41	〔書状断簡〕	未詳	1枚	おのふ様が快気のこと。羽織の儀は如何…。		
4	1	42	覚(銀子預り)	未詳	1通	仕送方→安田屋半三郎・同甚兵衛 銀42貫941匁2分3厘 仮切手の内渡し残銀		
4	1	43	〔お久に関する書状〕	未詳	1通	お久の熱が大方さめたが、せうかち(消渴)で氣むづかしく、姉に手伝わせて黒の小袖が出来た。上田屋半五郎が今晚下坂…。	後欠	
4	2	1	証(代銀算用)	明治14年11月1日	1通	谷利茂助→永瀬源作 縮面など ㍷9貫350匁	破損	
4	2	2	入日記	明治15年1月11日	1通	溝口新兵衛→永瀬源作 縮面・白繪子など ㍷6品入	(印)「京都 五条〔 〕嫁入 小袖仕入所」	
4	2	3	諸品御通	未詳	1枚	□口金五郎→永瀬源作 餐附・大筆・たひ・豆腐などの代金	帳簿の断簡 破損	
4	2	4	入日記	未詳	1通	西羽善兵衛 猩々など代銀書上	虫損甚し	
4	2	5	〔入日記〕	未詳	1通	西羽善兵衛→〔永瀬源〕作 飛田紬・信州紬など出来、送るので御改のこと。	虫損甚し	
4	2	6	〔代金書付〕	未詳	1枚	藤森様 生平 1歩1朱2匁、京・唐縮緬・かのこ代など	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり	
4	2	7	〔代金書付〕	未詳	1枚	武藤様 御召3両・鹿の子 30匁、他	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり	
4	2	8	〔代銀書付〕	未詳	1枚	小倉 2匁、岸 45匁、板 ㍷26匁、他	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり	
4	2	9	〔代金書付〕	未詳	1枚	石戸様 郡内2両3歩、他	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり	
4	2	10	〔代金書付〕	未詳	1枚	直原助右衛門様 襟 50匁、上下3両2歩、他	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり	
4	2	11	〔代金書付〕	未詳	1枚	天田 愛蔵様 帷子1歩2朱、他	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり	
4	2	12	〔代銀書付〕	未詳	1枚	尾坂様 小もん6匁4分、縞 21匁7分5厘、他	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり	
4	2	13	〔代金書付〕	未詳	1枚	山伏様 きぬ晒羽織1両、本屋様 縮面13匁1分、他	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり	
4	2	14	〔代金書付〕	未詳	1枚	武左衛門様 綾1両2朱、塩田仕立屋様 紐13匁、他	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり	
4	2	15	〔代金書付〕	未詳	1枚	大林 四五兵衛様 御召2両2歩2朱、襟1匁、他	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり	
4	2	16	〔代銀書付〕	未詳	1枚	塩田 原氏様 金巾 48匁、紫唐縮面 6匁6分、他	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり	
4	2	17	〔代金書付〕	未詳	1枚	黒本 茂吉様 金巾 24匁、きぬ晒 14匁、他	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり	
4	2	18	〔代金書付〕	未詳	1枚	唐朱子・縮面・金巾代など	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり	
4	2	19	〔代金書付〕	未詳	1枚	津田之助様 金巾1両2朱、襟1歩3朱、他	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり	
4	2	20	〔代金書付〕	未詳	1枚	黒本 万助様 上下1両2歩2朱、他	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり	
4	2	21	〔代金書付〕	未詳	1枚	此吉様 金巾1歩2朱、他	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり	
4	2	22	〔代銀書付〕	未詳	1枚	深川鼠絹 32匁、御召 10反 1貫900匁、他	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり	
4	2	23	〔代金書付〕	未詳	1枚	合金65両2朱ト永12分5厘、他	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり	
4	2	24	〔代銀書付〕	未詳	1枚	高嶋縮 2反 35匁、奈良10匁、他	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり	
4	2	25	〔代金書付〕	明治8年6月	1枚	明治8年六月 西京二而 越後縮 1端 395匁、上布 2反 524匁、他	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり	
4	2	26	〔代銀書付〕	未詳	1枚	奉書 185匁、奉書紬470匁、他 ㍷23貫840匁7分	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり	
4	2	27	〔代銀書付〕	未詳	1枚	友仙 1疋 800目、絹縮 1反 590匁、小倉紫160匁、他	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり	
4	2	28	〔代銀書付〕	明治元～同4年	1枚	山1ヶ所 所ハ大谷口 竹山(四至の記載あり)森嘉平治山、他	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり	
4	2	29	〔代銀書付〕	未詳	1まとめ	橋口様 金巾 13匁5分、小もん 40匁7分、他	糊がはがれず、貼り付いたままの状態 墨で抹消のしるしあり	
4	2	30	〔代銀書付〕	未詳	1枚	売上、利など	帳簿の断簡	
4	2	31	〔代銀書付〕	未詳	1枚	唐縮面 14匁、小倉 60匁、他	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり	

4	2	32	〔代銀書付〕	未詳	1枚	縮面・金巾代など ㄱ451匁4分、他	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり	
4	2	33	〔代金書付〕	未詳	1枚	塩田 岡本屋様 本九寸 44匁、他	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり	
4	2	34	〔代金書付〕	未詳	1枚	帷子かすり 1両3朱、他	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり	
4	2	35	〔代銀書付〕	未詳	1枚	武吉様 千草 51匁、利吉様 郡内66匁、他	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり	
4	2	36	〔代金書付〕	未詳	1枚	奥編 1両1朱、襟代など	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり	
4	2	37	〔代金書付〕	未詳	1枚	平野屋様 2両2朱不足、伊勢吉様 41匁4分不足、他	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり	
4	2	38	〔代金書付〕	未詳	1枚	高下 中屋様 岸編2歩1朱、他	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり	
4	2	39	〔代金書付〕	未詳	1枚	横町 高原カ様 博田9寸 2両2歩	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり	
4	2	40	〔代銀書付〕	未詳	1枚	稲横カ 久吉様 千草 121匁、他	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり	
4	2	41	〔代金書付〕	未詳	1枚	岸 1両3歩、他	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり	
4	2	42	〔代銀書付〕	未詳	1枚	紺屋 2朱、他	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり	
4	2	43	〔代銀書付〕	未詳	1枚	餅田 植野様 岸 180匁、かのこ 21匁、他	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり	
4	2	44	〔代金書付〕	未詳	1枚	二柿 三セカ様 編 1両3朱、他	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり	
4	2	45	〔代金書付〕	未詳	1枚	浜屋様 博田2両1歩、他	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり	
4	2	46	〔代銀書付〕	未詳	1枚	ふかさい 雪蔵様 三唐縮面 17匁、他	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり	
4	2	47	〔代金書付〕	未詳	1枚	小倉編 1反 1両2分2朱、他	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり	
4	2	48	〔代銀書付〕	未詳	1枚	石はしか 徳之助様 かのこ 14匁、他	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり	
4	2	49	〔代金書付〕	未詳	1枚	御召 2両2歩2朱、他	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり	
4	2	50	〔代銀書付〕	未詳	1枚	山の上 綱次郎様 513匁5分、他	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり	
4	2	51	〔代金書付〕	未詳	1枚	九合半 3両5分2厘、他		
4	2	52	〔代銀書付〕	未詳	1枚	大屋 健次様 2匁1分、白縮面など		
4	2	53	〔代銀書付〕	未詳	1枚	先生様 39匁 不足、定吉様 12匁不足	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり	
4	2	54	〔代銀書付〕	未詳	1枚	山の上 徳造様 孫五郎代不足 225匁、他	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり	
4	2	55	〔代銀書付〕	未詳	1枚	ㄱ365匁6分、他	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり	
4	2	56	〔御兄様宛信七郎カ書状〕	年未詳1月27日	1通	抵当指入、金子百円ばかり御貸付の義、依頼について。		
4	2	57	〔注文の件について〕	未詳	1通	注文書が参れば、代呂物を私宅まで早々御送りのこと。	前欠、後欠	
4	2	58	〔御通〕	未詳	1枚	〔 〕屋善七 3合 6分9厘、瀧川8合 2匁4分、他	帳簿の断簡 (印)「松善」	
4	2	59	〔代銀書付〕	未詳	1枚	勝川2合 6分 瀧川3合 9分、他	帳簿の断簡	
4	2	60	〔代銀書付〕	未詳	1枚	同9合半 1匁5分2厘、他		
4	2	61	〔代銀書付〕	未詳	1枚	5合 1匁1分、瀧川5合〔 〕1分、他		
5	1	1	〔書付断簡〕	未詳	1枚	「吹田屋」「天野屋」などの文字がみえる		
5	1	2	〔包紙断簡〕	年未詳1月21日	1枚	大坂二而 小嶋与兵衛様		
5	1	3	〔表紙〕	辰年	1枚	細井儀兵衛様	帳簿表紙の断簡	
5	1	4	〔代銀書付〕	未詳	1枚	石田文七 木ぐし 38匁	断簡 墨で抹消のしるしあり	
5	1	5	〔川柳書付〕	未詳	1枚	ふためいた木葉もあらし年暮 小早川松滴 題は「歳暮」 他に作者は、不及・拙存・魚樹など	断簡	
5	1	6	〔川柳書付〕	未詳	1枚	幾千も合点々と初清書 二酌 他に作者は、千行・平記など	断簡	
5	1	7	〔代銀書付〕	未詳	1通	小栗伊右衛門 金ふて1本 6文、南吉兵衛 ろうそく 100匁、他	後欠 墨で抹消のしるしあり	
5	1	8	〔代銀書付〕	未詳	1枚	極上釘・上丸太代など	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり	
5	1	9	〔逗留中御世話になった礼状〕	巳年12月	1通	権兵衛殿、庄右衛門様、於久様などの名前がみえる。	破損甚し	
5	1	10	〔薬種代書付〕	未詳	1枚	石田吉兵衛 ほとんこ 52匁、他	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり	
5	1	11	〔佐波屋藤右衛門カ・新兵衛宛西口屋九兵衛書状〕	年未詳3月	1通	江府御下りの節、清兵衛に道中御同道下さるよう仰合の件につ いて。	前欠 破損	
5	1	12	〔さとや藤右衛門宛ミのや忠次書状〕	年未詳11月9日	1通	万や茂兵衛様が十七番・十八番を差下す。十七番 108匁3分、十八 番 123匁1分、大急用とあり。	破損	
5	1	13	〔書付断簡〕	未詳	1枚	銀高指越しの件について	汚れ	
5	1	14	〔書付断簡〕	未詳	1枚	5-1-13と関連か 書認め、明29日罷出るよう仰付けられた…。「塩飽や」の文字など があるが、解読が難しい。	破損 汚れ	
5	1	15	〔代銀書付〕	未詳	1枚	ろうそく 100匁カ	断簡 墨で抹消のしるしあり	
5	1	16	〔加兵衛・四郎兵衛宛やす太郎は書状〕	未詳	1通	お悔やみの書状	前欠 破損	
5	1	17	〔銀子書付〕	未詳	1枚	残り12貫986匁 6分6厘カ	帳簿の断簡	
5	1	18	〔金子等書付〕	未詳	1枚	松・亀・鶴 大六殿カ 金20両渡ス 他	帳簿の断簡	
5	1	19	〔代銀書付〕	未詳	1枚	たる木代など ㄱ112匁受取	帳簿の断簡	
5	2	1	現金御通	明治12年2月	1枚	永瀬源作様	帳簿の表紙 (印)「備前 磐梨松木 竹屋」	
5	2	2	〔栄屋宛口口松井書状〕	年未詳11月2日	1通	仕立方について御尋ねにつき、御答え申す。	(上書)「岡山〔 〕にて 栄 屋様 口口松井 口書」	
5	2	3	〔代銀覚〕	年未詳12月8日	1通	奈良武→栄屋源作 合羽代など ㄱ2円56銭 この代金をこの人へ御渡しのこと	前欠	
5	2	4	出米	未詳	1通	円光寺 広吉 6斗、村ノ 俊三郎 3斗、他		

5	2	5	覚(代金書付)	年未詳12月8日	1通	東洞院六角下ル 河本庄兵衛→堺屋源作 紅柳美地透 600匁 此金6円		
5	2	6	記(借入金支払上)	明治14年8月15日	1通	サイキ堀与兵衛→永瀬源作 金80円 明治14年11月借入金50ヵ円元払上につき、御受取のこと。	虫損	
5	2	7	覚(品物送付)	年未詳3月4日	1通	牛口や→栄屋 芋122貫目 此1円50銭 御送り申上		
5	2	8	覚(代金書付)	年未詳12月8日	1通	小川孫兵衛→早瀬源作 逗口入 金4円40銭		
5	2	9	記(代銀書付)	年未詳12月8日	1通	斎藤茂兵衛 代孝助→堺屋 赤広金上鉄仙など 232匁5分	(印)「裂地 西京烏丸通錦小 路上ル町 斎藤茂兵衛」	
5	2	10	記(代銀書付)	未詳	1通	白輪子など 2貫33匁	後欠	
5	2	11	〔代銀覚〕	年未詳12月7日	1通	蛭子五平→堺屋 糸代など 2金4円	前欠	
5	2	12	覚(代銀受取)	年未詳12月8日	1通	入江口太→永瀬様 菓子代など 1円24銭		
5	2	13	証(代銀書付)	年未詳12月8日	1通	寺田専助→永瀬	破損甚し	
5	2	14	判書	未詳	1通	中川正次郎→永瀬源之助 代銀 515匁 此金5円15銭	破損	
5	2	15	〔源作宛楨カー 郎書状〕	年未詳8月26日	1通	廻金も間違い困り入っているの、御猶予願いたい。来月下旬には払い済みのこと。	前欠	
5	2	16	記(代金書付)	年未詳12月7日	1通	竹田幾太郎→永瀬源作 糸織・吉野・岸織など 65円55銭	中央部欠 (印)「西京 柳馬場通六角下 ル町 竹田幾太郎 越後縮結 城関東呉服物おろし」	
5	2	17	〔代銀書付〕	未詳	1枚	判書 西羽善兵衛 境屋源之助様 奉書代など	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり	
5	2	18	〔書付断簡〕	年未詳12月4日	1枚	溝口新兵衛→永瀬源作	(印)「京都〔 〕西へ入 溝 口新兵衛 嫁入小袖仕入所」	
5	2	19	〔代金書付〕	巳年2月12日	1枚	目出度始 2 半し 2銭、元結 2銭5厘、上ちり紙 10銭、他	帳簿の断簡	
5	2	20	〔代金書付〕	未詳	1枚	洋釘・大筆・墨代など 7円4分8厘請取	帳簿の断簡 (印)「備前 磐梨 松木カ 万 屋」	
5	2	21	〔代金書付〕	未詳	1枚	さけ・はぜ・かき代	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり	
5	2	22	〔代金書付〕	未詳	1枚	さけ・あなご代	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり	
5	2	23	〔代金書付〕	未詳	1枚	さけ代	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり	
5	2	24	仕切書	年未詳10月25日	1枚	田畑武兵衛→境屋源之助 嶋朱子 155匁、博田広 325匁、他	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり (印)「現金 京都烏丸通三条 下ル町 田畑武兵衛」	
5	2	25	〔書付覚〕	未詳	1通	給 130、火 300、白 120、他		
5	2	26	〔代銀書付〕	未詳	1通	酒代 970銭、他	後欠	
5	2	27	〔代金書付〕	未詳	1枚	さけ・わらじ・こんにやく代など	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり	
5	2	28	〔代金書付〕	未詳	1枚	さけ・くわし・こんにやく代など	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり	
5	2	29	〔代金書付〕	未詳	1枚	さけ・かす・みかん代など	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり	
5	2	30	〔代金書付〕	未詳	1枚	さけ・いわし・はぜ代など	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり	
5	2	31	〔代金書付〕	未詳	1枚	さけ・こんにやく・するめ代など 11円37銭5厘受取	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり	
5	2	32	〔代金書付〕	年未詳正月5日	1枚	酒代 9円57銭8厘受取	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり	
5	2	33	〔代金書付〕	未詳	1枚	さけ・うちわ・みかん代など	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり	
5	2	34	〔代金書付〕	未詳	1枚	さけ・わらし・くわし代など	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり	
5	2	35	〔代金書付〕	未詳	1枚	さけ・みかん・かす代など	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり	
5	2	36	〔代金書付〕	未詳	1枚	さけ・いりぼし・かき代など	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり	
5	2	37	〔代金書付〕	未詳	1枚	さけ・こんにやく・かす代など	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり	
5	2	38	〔代金書付〕	未詳	1枚	安藤 召など 6円10銭、高柳 12円、池上 6円20銭、他	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり	
5	2	39	〔代金書付〕	未詳	1枚	くわし・しろさとふ代など	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり	
5	2	40	〔代金書付〕	未詳	1枚	周匠 いせ屋様 綾1両1朱、塩田 作次郎様 金巾など 181匁2 分、他	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり	
5	2	41	〔代金書付〕	未詳	1枚	高柳 上召など 10円39銭、安藤 朱子など	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり	
5	2	42	〔代金書付〕	未詳	1枚	奉書・金巾など 4貫542匁5分	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり	
5	2	43	覚(代銀書付)	未詳	1枚	白奉書1疋 561匁6分、紅板 綿縮面3疋 1貫20匁、他	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり	
5	2	44	〔代金書付〕	未詳	1枚	友仙縮面 430匁、広はかた 630匁、広島朱子 335匁、他	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり	
5	2	45	覚(代銀書付)	未年2月1日	1枚	早藤長兵衛→栄屋源之介 御召 2貫650匁、納戸秩父 230匁、白緞子 425匁、他		
5	2	46	〔代金書付〕	明治7年9月9日	1枚	緋紋り縮綿 1貫40匁、なら晒 100目、白輪子 10銭、他	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり	
5	2	47	〔代金書付〕	未詳	1枚	九寸はかた 300匁、友仙博田 545匁、白奉書 640匁、他	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり	
5	2	48	〔代金書付〕	未詳	1枚	岸納戸緋 1貫565匁、広博田 600匁、友禅縮面 1貫目、他	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり	
5	2	49	〔代金書付〕	明治8年2月21日	1枚	京壳 広博田筑前 950匁、きし 790匁、金巾風呂敷 50匁、他	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり	
5	2	50	〔代金書付〕	未詳	1枚	紋縮面 25匁、小紋越後 28匁、白輪子 12匁5分、他	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり	

5	2	51	〔代金書付〕	未詳	1枚	浅黄郡内 520匁、岸小島 1貫450匁、縮面裾除 282匁、他	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり	
5	2	52	〔代金書付〕	未詳	1枚	広黒朱子 560匁、岸納戸餅 1貫750匁、本米沢 1貫262匁5分、他	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり	
5	2	53	〔代金書付〕	未詳	1枚	九寸朱子 170匁、九寸博多 228匁、絵皮縮面 320匁、他	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり	
5	2	54	〔代金書付〕	未詳	1枚	九寸博多 175匁、越後結キ 881匁、小倉糸入 590匁、他	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり	
5	2	55	〔代金書付〕	未詳	1枚	田辺 郡内など 〆9円85銭5厘、新屋 紬など 〆1円50銭、他	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり	
5	2	56	〔代金書付〕	未詳	1枚	市治カ 博田帯 2円60銭、広瀬氏 本紅 2円31銭、他	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり	
5	2	57	〔代金書付〕	未詳	1枚	内方 良平 煙草 17銭、小せ木 兼吉 30銭、他	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり	
5	2	58	〔代金書付〕	未詳	1枚	長谷川 朱子・襟など 〆6円66銭5厘、かま屋 1円、三角屋 5円60銭、他	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり	
5	2	59	〔代金書付〕	未詳	1枚	いなぞヤカ 3円85銭、喜平様 1円70銭、他	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり	
5	2	60	〔代金書付〕	未詳	1枚	中嶋 きし 5円、武田 2円45銭、後藤 17円40銭5厘、他	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり	
5	2	61	〔代金書付〕	未詳	1枚	川田 上代 1丈 3円80銭、本 長谷川 花水 1尺 11銭、他	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり	
5	2	62	〔代金書付〕	未詳	1枚	本 片岡 2円68銭など、新 片岡 33銭、他	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり	
5	2	63	〔代金書付〕	未詳	1枚	桜井 八文など 〆16円25銭2厘、武田 〆4円9厘、他	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり	
5	2	64	〔代金書付〕	未詳	1枚	後藤 3円30銭、小カ瀬 郡内 84銭、他	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり	
5	2	65	〔代金書付〕	未詳	1枚	金巾 44匁、絹1反 1両3朱、他	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり	
5	2	66	〔代銀書付〕	未詳	1枚	紋織 375匁、花色秩父 585匁、他		
5	2	67	〔代銀書付〕	未詳	1枚	白せみ織縮・うつらなど 1疋 250匁、他 〆6貫150匁 此金61両2朱ト2匁5分受取		
5	2	68	〔代銀書付〕	未詳	1枚	山本屋後木様 かもん1反 59匁、他	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり	
5	2	69	〔代金書付〕	未詳	1枚	さけ・ぐちなど代金書上	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり	
6	1	1	〔小西藤兵衛宛ならや治兵衛カ書状〕	年未詳2月12日	1通	夜前火事につき、其元様へ何事もなきか御尋ね。	下部欠	
6	1	2	〔権兵衛カ書状〕	年未詳2月9日	1通	店の義…、其御地藤右衛門様思召しの段もお気の毒…	前欠、破損甚だし	
6	1	3	〔書状断簡〕	未詳	1枚	「御屋舗」「熊本家老」「無礼」などとあるが、内容不明		
6	1	4	〔書状断簡〕	年月未詳5日カ	1枚	御口→三右衛門		
6	1	5	〔代銀書付〕	年未詳5月1日	1枚		帳簿の断簡	
6	1	6	〔書付断簡〕	未詳	1枚	表具屋清兵衛カ 屏風預通		
6	1	7	〔書状断簡〕	未詳	1枚	御用の義…		
6	1	8	書出し	未詳	1通	いりもの・ゑひ・つくりもの等、〆4匁7分	後欠	
6	1	9	〔代銀書付〕	未詳	1枚	大津 与兵衛、川孫 103匁8分、泉武 103匁8分5厘、他	帳簿の断簡	
6	1	10	〔人別銀子書付〕	未詳	1枚	ふし弥兵衛 3匁8分5厘、小国屋市兵衛 3匁8分5厘、他	帳簿の断簡	
6	1	11	〔人別銀子書付〕	未詳	1枚	米屋伊兵衛、三田屋惣兵衛、他	帳簿の断簡	
6	1	12	〔代銀書付〕	未詳	1枚	半し代など	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり	
6	1	13	〔算用書付〕	未詳	1枚	代42貫884匁、残り31匁5分かし	断簡	
6	1	14	〔算用書付〕	未詳	1枚	代1貫269匁2分入、他	帳簿の断簡	
6	1	15	〔代銀書付〕	未詳	1枚	紋羽、浅黄など 〆4匁、他	断簡	
6	1	16	〔寸法書付〕	未詳	1枚	身5尺3寸、廻し9寸、他	断簡	
6	1	17	〔銀子書付〕	未詳	1枚	354匁 廿三、354匁 廿四、他	断簡	
6	1	18	〔人別銀子書付〕	未詳	1枚	五左衛門 7匁7分、他	断簡	
6	1	19	〔銀子など書付〕	未詳	1枚	人名、金銭書付	断簡	
6	1	20	〔品物書付〕	未詳	1枚	ろうそく、平巾など	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり	
6	1	21	〔人別銀子書付〕	未詳	1枚	河内屋源助 4匁5厘、他	帳簿の断簡	
6	1	22	〔算用書付〕	未詳	1枚		断簡	
6	1	23	〔書付断簡〕	年月未詳25日	1枚	金銭算用		
6	1	24	〔書付断簡〕	未詳	1枚	小鯛四、貝		
6	2	1	〔代銀書付〕	未詳	1枚	喜代次様 段(綴カ)子帯5両1歩、他	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり	
6	2	2	〔代金書付〕	未詳	1枚	岸小編 7円75銭、他	帳簿の断簡	
6	2	3	〔代金書付〕	未詳	1枚	〆6円27銭1厘	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり	
6	2	4	〔代金書付〕	未詳	1枚	八丹双子 4円45銭、他	帳簿の断簡	
6	2	5	〔代銀書付〕	未詳	1枚	千草 45匁、唐ちり 8匁、他	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり	
6	2	6	〔算用書付〕	未詳	1枚	合テ6円47銭7厘	帳簿の断簡	
6	2	7	〔代銀書付〕	未詳	1枚	5銭 生か砂糖 使勘七、晒足袋 使母 27銭5厘、他	帳簿の断簡	
6	2	8	〔代銀書付〕	未詳	1枚	野上新宅様 御召 1両、紫小倉 68匁、浅キ 55匁、他	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり	
6	2	9	〔算用書付〕	未詳	1枚	〆2貫780匁	帳簿の断簡	
6	2	10	〔代金書付〕	未詳	1枚	桜盆 使母 3銭、金巾 使勘七 7銭、半紙 使母 2銭、他	帳簿の断簡	
6	2	11	〔代銀書付〕	未詳	1枚	34反 570匁、9反 144匁、他	帳簿の断簡	
6	2	12	〔代銀書付〕	未詳	1枚	襦地12反 114匁、巾子180反 1貫180匁、他	帳簿の断簡	
6	2	13	〔代金書付〕	未詳	1枚	大がめ 使金三郎 70銭、くろさとう 使女 4銭、そうめん 使はる 11銭、他	帳簿の断簡	
6	2	14	〔代銀書付〕	未詳	1枚	紫御召 20匁、朱子 33匁、縮緬 90匁、他	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり	
6	2	15	〔代銀書付〕	未詳	1枚	あそ屋富吉様 から色3反 46匁、他	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり	
6	2	16	〔代金書付〕	未詳	1枚	かのこ 40匁、帷子 1両2歩、他	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり	
6	2	17	〔代銀書付〕	未詳	1枚	貧カ屋様 千草2反 90匁、小もん 104匁5分、他	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり	

6	2	18	入日記	年未詳2月17日	1枚	入日記 口沢村芳兵衛→栄屋源之助	帳簿の断簡 虫損 (印)「西京蟬葉師室町入 口 沢村半兵衛 半襟鹿子類」	
6	2	19	〔算用書付〕	年未詳1月8日	1枚	田畑武兵衛→永瀬源作 合18貫940匁	帳簿の断簡 (印)「現金 京都烏丸通三條 南二入 田畑武兵衛 西陣織 物帯地類仕入所」	
6	2	20	御魚御通	明治〇年	1枚	御魚御通 新田 黙三郎→マツ〔キ〕栄屋様 生子 2銭5厘、ゑび 12銭、もがゐ 5銭、他	帳簿の表紙 墨で抹消のしるしあり	
6	2	21	〔代金書付〕	未詳	1枚	せん 330匁	帳簿の断簡	
6	2	22	〔代金書付〕	未詳	1枚	下駄緒 使母 4銭、鯉 使母 8銭、しろさとふ 使はる 10銭、他	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり	
6	2	23	〔代金書付〕	未詳	1枚	ふのり 2銭、蓮根 使はる 6銭、山あわひ 3銭6厘、他		
6	2	24	〔代金書付〕	未詳	1枚	曾根 北嶋屋様 奉書羽織 1反 1両2歩1朱、他	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり	
6	2	25	〔代銀書付〕	年未詳9月7日	1枚	沢村芳兵衛→栄屋源之助 博多・文庫代など 〆5貫5480匁	帳簿の断簡	
6	2	26	〔代金書付〕	未詳	1枚	洋銀箸 使勘七 5銭、椎茸 使はる 10銭5厘、他	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり	
6	2	27	〔代金書付〕	未詳	1枚	菓子代 使勘七 2銭、金巾糸 使はる4銭5厘、他	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり	
6	2	28	〔代金書付〕	未詳	1枚	くろさとふ 使母 11銭、袋打根緒 使円吉 3銭4厘、他	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり (印)「備前 磐梨 松木 竹 屋カ」	
6	2	29	〔代金書付〕	未詳	1枚	白砂糖 使勘七 5銭、そふめん 使はる 5銭5厘、他		
6	2	30	〔代金書付〕	未詳	1枚	手拭 20銭、扇子 7銭、小蠟燭 1銭、他	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり	
6	2	31	〔代金書付〕	未詳	1枚	鯛 60銭、いか 8銭、ゑい 4銭、他 〆5円92銭受取	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり	
6	2	32	〔代金書付〕	未詳	1枚	燕さこふ 使勘七 4銭、ホリ 使母 1銭、釘金 使長二 10銭5厘、 他		
6	2	33	〔代金書付〕	未詳	1枚	雪踏 43銭、白砂糖 16銭、他	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり	
6	2	34	記(代金書付)	年未詳9月26日	1枚	沢村芳兵衛→永瀬源作 茂兵衛カ 150匁、他	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり	
6	2	35	記(代金書付)	未詳	1枚	金山袖 12円50銭、郡内 9円10銭、秩父嶋 28円90銭、他	帳簿の断簡	
6	2	36	〔代銀書付〕	未詳	1枚	浅灰 365匁、吟風 330匁、他	帳簿の断簡	
6	2	37	〔代銀書付〕	未詳	1枚	吉梗 1貫100匁、千草 970匁、江戸いせ 450匁、他	帳簿の断簡	
6	2	38	〔代銀書付〕	未詳	1枚	鹿子・銀鼠など 〆3貫274匁5分	帳簿の断簡	
6	2	39	記(代銀書付)	明治10年9月8日	1枚	京都 溝口新兵衛→永瀬源作 鼠壁・白輪子など 〆1貫550匁、他	帳簿の断簡(印)「五条通 室 町東 井新」	
6	2	40	仕切書	年未詳9月3日	1枚	山田定七→堺屋源之介 本糸織・黒ハ・綿南部など 〆85円	帳簿の断簡 (印)「京都 烏丸三条下ル町 山田定七 関東呉服仕入所 現金札附」	
6	2	41	〔算用書付〕	明治14年9月2日	1枚	市田店→堺屋源之助 〆金156円54銭5厘	帳簿の断簡	
6	2	42	〔代銀書付〕	未詳	1枚	紺金巾 59匁、小倉 73匁、千草 44匁、他	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり	
6	2	43	〔算用書付〕	未詳	1枚	売物・付出しなど 〆76貫627匁 巾子 22匁、他	帳簿の断簡	
6	2	44	〔代金書付〕	未詳	1枚	吉田 久平様 御召・更紗大巾など 〆2両3歩2朱、他	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり	
6	2	45	仕切	年未詳9月6日	1枚	山田定七→永瀬源助 南部・嘉平次・糸織など 〆74円75銭	帳簿の断簡 (印)「京都 烏丸三条下ル町 山田定七 関東呉服仕入所 現金札附」	
6	2	46	記(代金書付)	明治12年12月16日	1枚	市田店→堺屋源之助 綿南部・秩父嶋・越後結城・赤小川など88円9銭	帳簿の断簡 (印)「現金札附 呉服夏物仕 入所 京六角高倉西江入町 市田店」	
6	2	47	記(代金書付)	明治14年2月17日	1枚	市田店→長瀬源之助 米本糸折・武州糸織・綿山田など 〆97円5銭	帳簿の断簡 (印)「現金札附 呉服夏物仕 入所 京六角高倉西江入町 市田店」	
6	2	48	覚(代銀書付)	未詳	1枚	博多広など 〆18貫290匁	帳簿の断簡 虫損	
6	2	49	〔代銀書付〕	未詳	1枚	紅縮面 860匁、白絹 12匁、他	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり	
6	2	50	〔代銀書付〕	未詳	1枚	本御召 350匁、同小嶋 1貫50匁、すきや 310匁、他	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり	
6	2	51	〔代銀書付〕	未詳	1枚	鹿子 540匁、紅梅秩父 340匁、紅梅緞子 375匁、他	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり	
6	2	52	仕切書	年未詳12月7日	1枚	西羽善兵衛→永瀬源作 縮緬・上代など 〆41円15銭	帳簿の断簡	
6	2	53	記(代銀書付)	年未詳9月7日	1枚	松屋重太郎→びぜん永瀬源作・御店中様 黒朱ス550匁、他	帳簿の断簡 (印)「京都 五條烏丸西入町 松屋重太郎 西陣織物仕入処 井二小物〔 〕」	
6	2	54	記(代金書付)	明治15年1月9日	1枚	市田店→長瀬源之助 黄八丈・岸島など 〆112円9銭	帳簿の断簡 (印)「現金札附 呉服夏物仕 入所 京六角高倉西江入町 市田店」	
6	2	55	記(代銀書付)	年未詳9月27日	1枚	西羽善兵衛→永瀬源作 本奉書 1貫600匁、相鼠 910匁、狸々 720匁、他	帳簿の断簡	
6	2	56	〔代銀書付〕	年未詳9月27日	1枚	田畑武兵衛→永瀬源作 博田 555匁、縮カ子 985匁、博田広 5貫760匁、他	(印)「現金 京都烏丸通三條 南工入 西陣織物帯地類仕入 所 田畑武兵衛」	
6	2	57	〔代銀書付〕	明治6年	1枚	生平 175匁、越後紋付 27匁、他	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり	
6	2	58	〔代銀書付〕	年未詳9月7日	1枚	月の屋芳兵衛→栄屋源之助 白輪子・朱子・重掛など 〆3貫685匁	帳簿の断簡	

6	2	59	〔代銀書付〕	未詳	1枚	広博田 370目、広島朱子 330匁、大和紺 100目、他	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり	
6	2	60	〔代銀書付〕	明治6年5月12日	1枚	面仙 428匁、きし紬紺 505匁、秩父紺 275匁、他	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり	
6	2	61	〔代銀書付〕	未詳	1枚	紅梅緞子 345匁、紺岸 415匁、岸紬紺 1貫5匁、他	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり	
6	2	62	〔代銀書付〕	未詳	1枚	紺朱子 320匁、筑前 640匁、広緞子350匁、他	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり	
6	2	63	〔代銀書付〕	未詳	1枚	越後結城 885匁、紺紫三段 670匁、花色飯野 335匁、他	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり	
6	2	64	仮記(代金書付)	年未詳9月6日	1枚	？一堺屋源太郎 黒八丈、武州平 10円、羽二重 9円75銭、他	帳簿の断簡	
6	2	65	〔代銀書付〕	未詳	1枚	新仙台袴地 500匁、面仙袴 95匁、奉書紬 260匁、他	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり	
7	1	1	〔代銀覚〕	酉年7月27日	1通	近江カや喜介→橋右中 唐常山 3匁2分5厘、他	前欠	
7	1	2	〔代銀書付〕	未詳	1枚	山吹など、正味1貫157匁1分9厘	断簡	
7	1	3	〔書状断簡〕	年未詳12月3日	1枚	？一尊延寺村恭蔵 御礼カ		
7	1	4	覚(代銀算用)	未詳	1通	越後屋〔 〕 中紅など 〆11匁9分 認め落しにつき銀子御越しのこと 2口合88匁3分5厘 内78匁7分受取 残9匁6分5厘不足	後欠	
7	1	5	〔代銀覚〕	酉年7月	1通	三井 半次郎→右仲 色縮面カなど 〆76匁8分5厘	前欠	
7	1	6	〔河崎屋次兵衛宛橋右仲書状〕	年未詳11月19日	1通	間違いなく御届下されたきこと。近日中に御目に懸け申上ること。	前欠	
7	1	7	〔代銀覚〕	酉年7月	1通	堤/勘兵衛→右中 茶1斤、油1升、むろ3貫100目など 〆9匁7分5厘	前欠、上部欠	
7	1	8	口上	年月未詳5日	1通	藤田屋辻並弥玄二→〔 〕先生 植枝少々にても御かし下されたきこと	破損	
7	1	9	覚(代銀書付)	年未詳9月6日	1通	越後屋忠右衛門→橋右仲 すゝめ形唐紙1匁、金行成3分5厘、他		
7	1	10	〔橋右仲宛沢小口屋小太郎書状〕	年未詳7月9日	1通	銀子調達願い	破損	
7	1	11	〔御尋ねにつき書状〕	未詳	1通	いつ頃御下りか、お尋ね申上ること。	前欠	
7	1	12	〔うちう殿宛祖母書状〕	年未詳29日	1通	のぞみの通り姉子御もらいなされたので、このことをよと(淀)へ御 かけ合致したいことについて。	前欠	
7	1	13	口上	未詳	1通	？一橋右仲 盆前、三井呉服物代銀御越し下されたので受取。	後欠、破損	
7	1	14	〔橋右中宛近江屋喜介書状〕	年未詳7月27日	1通	御注文の品を取揃差上るので、御落手のこと。折茶枝 20目他	後欠 (上書)「橋右仲様 近屋喜介 外二七袋添」	
7	1	15	〔書付〕	未詳	1通	川辺藤 いにしへを思ひ出てや藤の花さきかけみする		
7	1	16	〔刀剣に関する書状〕	年月未詳29日	1通	源兵衛持参の国貞と、拙者が調べ置いた真改とではどちらがよろ しきや。	前欠	
7	1	17	覚(不足銀の催促)	年未詳7月27日	1通	越後屋忠右衛門→橋氏 当盆前差上銀など 〆88匁3分5厘、内78匁3分2厘受取、9匁6分 5厘不足につき、御越し下されたきこと。	前欠	
7	1	18	〔姉子様御片付方の儀につき 書状〕	未詳	1通		後欠	
7	1	19	〔姉子様御片付方の儀につき 書状〕	未詳	1通		後欠	
7	1	20	〔妹子様御所望についての書 状〕	未詳	1通	御姉様を差し置き、御妹子を御所望仕るのは不本意の道理であ るので御断り申上るべきところ、御両親様より御兩人の中、いつ れ様にもさしままいないということなので、御妹子様を御所望仕 りたい。	前欠 下書	
7	1	21	〔右仲様の御帰りを案じる書 状〕	未詳	1通	右仲様、長尾辺りで雨に御合いなされたのではないかと心配した が、御きけんよく御帰りになれたかどうかの伺い。私は雨の音 がさわがしく、のぼせ、めまいがしてかやの中で涼み、右仲様を 案じていた、他	前欠、後欠	
7	1	22	〔姉子様の御所望を依頼する 書状〕	未詳	1通		前欠、後欠	
7	1	23	〔黒ちりめん羽織紋所直しにつ いての書状〕	未詳	1通		前欠、後欠	
7	1	24	〔橋右仲書状〕	未詳	1通	御当人儀、来る10日頃、船橋表まで御引取申したき趣のこと、他	前欠、後欠	
7	1	25	〔姉子様の御所望願いに対す る書状〕	未詳	1通		前欠、後欠 下書	
7	1	26	〔御土産の御礼などについて の書状〕	未詳	1通	先だつては御出下されたこと。北村氏より丁寧な御断り。お土産と して色々を送り下されたこと、他	後欠	
7	1	27	〔妻の病氣などについての書 状〕	未詳	1通	お栄さまの着下しの嶋単をもらって悦んでいること。	前欠、後欠	
7	1	28	〔病人の見廻についての書状〕	未詳	1通	徳八殿は一日交りに、克蔵殿も度々御見廻なされている。病人の 様子は、庄五郎殿御便に徳八殿より申参とのことである。おゑ いの病氣について。	前欠、後欠	
7	1	29	〔姉子をさし置き妹子と申すこ とについての書状〕	未詳	1通	姉子をさし置き、妹子と申すは人倫にはづれ、おとなしからぬ様に 存じ…	前欠、後欠	
7	1	30	〔覚書〕	未詳	1通	廿一日 △ 同断塩垣へ咄合ひま入、廿五日 坂田屋一件相段、他	帳簿の断簡	
7	1	31	〔人名書上〕	未詳	1通	真鍋勘之允、番外 荒井和藤太、他	前欠、後欠、破損	
7	1	32	〔書付断簡〕	未詳	1枚	川辺の藤 いにしへを思ひ出…		
7	1	33	〔書状断簡〕	未詳	1枚	時候の挨拶		
7	1	34	〔書状断簡〕	未詳	1枚	御当人義、船橋表まで御引取のこと。病者は帰着のこと。		
7	1	35	〔川澄紋左衛門宛書状断簡〕	未詳	1枚	御家内様へよろしく御伝へのこと。		
7	1	36	〔書状断簡〕	未詳	1枚	時候の挨拶		
7	1	37	〔書状断簡〕	未詳	1枚	肴の御礼、近々参上すること。		
7	1	38	〔川澄紋左衛門へ内用の義に つき書状〕	未詳	1通		後欠	
7	1	39	〔書付断簡〕	未詳	1枚	「新しくむすひそめたるゆい彼子くれないふかき…」		
7	1	40	〔書付断簡〕	未詳	1枚	「黒かねの釘の様な文…」		
7	1	41	〔書付断簡〕	未詳	1枚	「舟橋村」とあり		
7	1	42	〔書付断簡〕	未詳	1枚	「覚…」		

7	1	43	〔書状断簡〕	未詳	1枚	「一筆啓上仕候…」		
7	2	1	記(金銭請取)	年未詳9月9日	1通	上京第貳拾九校御池通高倉西入 谷利茂助→堺源之助 金2円請取		
7	2	2	〔書付断簡〕	未詳	1枚	大橋清二→永瀬源作		
7	2	3	〔人別銀子書付〕	未詳	1枚	小せ木 角治 6匁、森利右衛門 37匁、他	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり	
7	2	4	〔人別銀子書付〕	未詳	1枚	村方二而 33匁、川田弥四郎 1貫目、他	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり	
7	2	5	記(代金書付)	未詳	1枚	越後結キ4疋 50円10銭	断簡	
7	2	6	記(代金書付)	未詳	1枚	7寸片田 12円80銭	断簡	
7	2	7	〔書付断簡〕	年未詳9月7日	1枚	谷利茂助→堺屋源之助		
7	2	8	記(代金書付)	未詳	1通	30枚 かんふり 此代1円2銭、惣 1円91銭、他	後欠カ	
7	2	9	記(金銭受取)	年未詳8月11日	1通	松居正次郎→? 長瀬渡分カ金50銭受取	虫損	
7	2	10	記(借入金受取)	(明治)13年8月28日	1通	堀与市→〔永瀬〕源作 50円御借借分の内8円受取	虫損	
7	2	11	記(代金書付)	年未詳2月19日	1通	鳥居又七→永瀬 二ツ切磨入絵他 14円25銭	(印)「万すりもの所 年玉祝義 磨錦画るい 京四条高倉西 鳥居又七」	
7	2	12	〔代金寛〕	明治14年2月17日	1通	山田市次郎→永瀬源作 16円80銭	前欠 (印)「京都仕入所 西洋織物 類 関東呉服類 染物着尺類 室町通五条上ル町 山田市次 郎」	
7	2	13	〔代金寛〕	年未詳2月19日	1通	蛭子屋利兵衛→堺屋 此金11円84銭8厘	前欠	
7	2	14	おほへ	未詳	1通	口田伊兵衛→堺屋源作 紅白綿など代金	虫損甚し	
7	2	15	〔代金書付〕	未詳	1枚	五百拾三 四百九拾七など 13貫目366匁 大柄13疋 他	帳簿の断簡	
7	2	16	〔記帳願〕	明治14年6月8日	1通	辻平三郎→永瀬源作	前欠	
7	2	17	〔算用書付〕	未詳	1枚	惣合32貫573匁5分 利分は西広の通へ書出し	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり	
7	2	18	〔金銭書付〕	未詳	1枚	日付別金銭書上 東村行など 6貫980匁	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり	
7	2	19	〔人別金銭書付〕	巳年正月3日	1枚	村安左衛門取 100目、中のおとう 13匁、小延卯八弘 20目、他	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり	
7	2	20	〔算用書付〕	未詳	1枚	金148円83銭4厘、他	帳簿の断簡	
7	2	21	〔代金等書付〕	未詳	1枚	御取入日記 440目、ふくさ房90匁など 1貫184匁8分	帳簿の断簡	
7	2	22	〔金銭書付〕	未詳	1枚	五百廿壹 五百三〇 五百廿八匁 他	帳簿の断簡	
7	2	23	〔賃金書付〕	未詳	1枚	佐伯 140目1分、周匠 182匁など 1貫990目	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり	
7	2	24	〔賃金書付〕	未詳	1枚	原村行など 1貫243匁、他	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり	
7	2	25	舌代	年未詳9月8日	1通	遠藤と七店久七→永瀬 広博田、嶋縹子5本、黒朱子1本など、文庫も附けるので買取願 上。		
7	2	26	〔人別金銭書付〕	未詳	1通	三崎 岩元 4円60銭、釣井 広瀬新宅 2円45銭、他	帳簿の断簡	
7	2	27	〔賃金書付〕	未詳	1枚	木倉行 172匁6分、和氣行 130目、日室行 106匁、他	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり	
7	2	28	〔人名等書付〕	明治13年6月20日	1通	大橋清平→永瀬源之助 平岡・長光・沼田、他	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり	
7	2	29	記(代金書付)	未詳	1枚	縮15巾 8円40銭、他	帳簿断簡 (印)「エチコカンワサキ 金 子」	
7	2	30	〔賃金書付〕	未詳	1枚	佐伯行 154匁、周匠行 250目、他	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり	
7	2	31	証(代銀書付)	年未詳9月1日	1通	西羽善兵衛→永瀬源作 口塩瀬 320匁、同紅無 220匁、他	下部破損	
7	2	32	記(料金請取)	年月未詳15日	1通	はし本や 御泊り12人様 1円92銭、酒代・玉子・おかすなど 2円28銭5厘 請取	破損	
7	2	33	〔日付別金銭書付〕	未詳	1枚	廿五日 614匁、19日 667匁、他	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり	
7	2	34	〔代銀書付〕	明治13年9月9日	1通	小堀喜助→長瀬源作 同2本 770匁 正味1貫428匁	前欠 (印)「西陣織 京松原通室町 角 博多小倉仕入所 小堀喜 助」	
7	2	35	〔代金書付〕	未詳	1枚	紺小口 9円50銭、紺小巾 8円70銭、他	帳簿の断簡カ	
7	2	36	〔代銀書付〕	年未詳9月1日	1通	京都五條通烏丸西江入ル醍醐町280番地 蟻井婦佐→永瀬源作 白郡内カ・糸 13貫711匁	帳簿の断簡	
7	2	37	〔賃金書付〕	未詳	1枚	和氣行・吉田行・神根行など 2貫537匁6分	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり	
7	2	38	〔賃金書付〕	未詳	1枚	大田原・和氣行 197匁、下村行 237匁4分、他	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり	
7	2	39	証(代金書付)	未詳	1通	7寸 600円、9寸320匁、他		
7	2	40	入日記	年未詳口月2日	1通	西羽善兵衛→永瀬源作 奉書 30銭、相鼠縮面 20銭、他	虫損	
7	2	41	〔代銀書付〕	未詳	1通	銀鼠 岩牡丹 1貫150目、紅入銀鼠 1貫320目、他	帳簿の断簡カ 虫損	
7	2	42	記(代銀書付)	明治15年9月30日	1通	西京間之町御池下ル谷利茂助→永瀬源作 縮面など 6貫70匁	破損	
7	2	43	〔代銀書付〕	年未詳9月25日	1通	竹田幾太郎→永瀬源作 160円10銭、文庫仕立 40銭、他	前欠	
7	2	44	記(代金書付)	年未詳2月18日	1通	喜多川孫兵衛→堺屋源之介 4貫760匁	(印)「京 高谷カ西 喜多川」	
7	2	45	記(代金書付)	明治14年2月18日	1通	小堀喜助→永瀬源作 博田7寸など 5貫284匁、内1貫625匁引 正味3貫659匁	(印)「西陣織 京松原通室町 角 博多小倉仕入所 小堀喜 助」	
7	2	46	記(代金書付)	年未詳2月14日	1通	溝口新兵衛→永瀬源作 緋縮面 700匁	(印)「五条通 烏丸西 井 新」	
7	2	47	記(代金受取)	年未詳2月17日	1通	室町通蛸薬師〔 〕や水原宗助→永瀬 仕入帳 1・十枚通 20など 1円14銭5厘請取	破損 虫損	

7	2	48	記(代金書付)	年未詳6月15日	1通	松居庄治郎→永瀬源作 奈良晒・白越後など ㄥ合31円57銭4厘	(印)「西京 蛸薬師通烏丸西 江入 松居庄治郎」	
7	2	49	記(代金書付)	明治14年2月	1通	高山弥助→永瀬源之助御店御衆中 博多3寸・黒朱子など ㄥ66円91銭		
7	2	50	〔金銭書付〕	未詳	1枚	千六十五 6円25銭、千六十弍 6円、千百十三 6円10銭、他	帳簿の断簡	
7	2	51	〔銀子書付〕	未詳	1枚	483匁 463匁 393匁、他	帳簿の断簡	
7	2	52	〔御兄上様宛かね書状〕	年未詳1月12日	1通	米35俵カ受取	中央部欠損	
7	2	53	記(御引合御記帳願い)	明治14年6月9日	1通	辻平三郎→永瀬源作 高嶋縮10反、同格子5反など御引合御記帳下さること。	帳簿の一部	
7	2	54	〔御引合御入帳願〕	明治15年6月17日	1枚	越後柏崎松村亀蔵→松木村長瀬源作 正味金125円12銭	帳簿の断簡	
7	2	55	〔銀子書付〕	未詳	1枚	475匁 510匁 517匁	帳簿の断簡	
7	2	56	〔賃銭書付〕	未詳	1枚	神根行 101匁、日笠行 162匁5分、他	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり	
7	2	57	売上仮記	未詳	1枚	紅立巻810匁、布大柄813匁、他	帳簿の断簡	
7	2	58	〔日付別金銭書付〕	未詳	1枚	盆後始り 7月14日より8月3日迄 1貫628匁、他	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり	
7	2	59	〔願上覚〕	明治15年8月	1枚	辻平三郎→永瀬源作 よろしく願上のこと	帳簿の断簡	
7	2	60	〔金銭書付〕	年未詳9月7日	1枚	山田定七→長瀬	前欠 (印)「京都 現金札附 関東呉 服仕入所 烏丸三条下ル町 山田定七」	
7	2	61	〔書付断簡〕	未詳	1枚	よろしく願上のこと。		
7	2	62	〔代金書付〕	未詳	1枚	2尺4寸5分立・基平など、惣計正味金142円41銭	帳簿の断簡	
7	2	63	〔賃銭書付〕	未詳	1枚	周匠行 98匁3分、和氣行 208匁6分、他	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり	
7	2	64	記(代金書付)	未詳	1通	辻平三郎→永瀬源作 昨年夏物差引残り、布小柄、布大柄10疋 68円22銭、他	帳簿の断簡	
7	2	65	〔金銭書付〕	未詳	1枚	ㄥ16貫797匁、九掛 113円91銭3厘	帳簿の断簡	
7	2	66	記(金銭書付)	(明治)15年	1枚	金153円18銭、他	断簡	
7	2	67	〔賃銭書付〕	未詳	1枚	周匠行 185匁、和氣行 231匁、他	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり	
7	2	68	〔賃銭書付〕	未詳	1枚	南方行 652匁7分、作州行 339匁、他	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり	
7	2	69	〔賃銭書付〕	未詳	1枚	父井行・川田行・神根行など惣合143貫291匁7分、他	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり	
7	2	70	〔代金書付〕	未詳	1枚	黒本屋 7円80銭、糸屋 りんす1円30銭、他	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり	
7	2	71	〔代金書付〕	未詳	1枚	岡野氏 9円、日笠氏 16円、他	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり	
7	2	72	〔代金書付〕	未詳	1枚	延原氏 73銭、矢田 坪井 24銭、他	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり	
7	2	73	〔代金書付〕	未詳	1枚	河本屋 新あさ 1円60銭、延岡此内 高縮2円25銭、他	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり	
7	2	74	〔代金書付〕	未詳	1枚	奈良 はま屋 3円60銭、奈良 津原氏 3円50銭、他	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり	
7	2	75	〔代金書付〕	未詳	1枚	池上 奈良 4円55銭、大崎 武藤 奈良 1円25銭他、ㄥ13円41銭1 厘	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり	
7	2	76	〔代金書付〕	未詳	1枚	小川 7円、他	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり	
7		77	〔代金書付〕	未詳	1枚	新宅 岸 9円、朱子 42銭、他	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり	
7	2	78	〔代金書付〕	未詳	1枚	小吉 2円66銭、岡部 岸 4円75銭、	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり	
7	2	79	〔代金書付〕	未詳	1枚	奈良酒屋 2円10銭、高倉 服部 白浅 3円40銭他、ㄥ17円10銭2 厘	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり	
7	2	80	〔代金書付〕	未詳	1枚	角南栄吉 白浅 23銭7厘、藤原家 奈良 350銭他、ㄥ7円11銭7厘	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり	
7	2	81	売上仮記	未詳	1枚	生平・立巻など ㄥ2貫125匁、布小柄、他	帳簿の断簡	
7	2	82	〔代金書付〕	未詳	1枚	日上 三日市 あふそ 4円20銭、近長 烏越 白浅 45銭、東 松永 3 円50銭、他	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり	
7	2	83	〔代金書付〕	未詳	1枚	本 原氏 白あさなど ㄥ3円58銭7厘、本 延原氏 1円70銭、他	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり	
7	2	84	〔金銭書付〕	未詳	1枚	六五掛 金180円43銭、他	帳簿の断簡	
7	2	85	〔代金引合願〕	(明治)14年6月8日	1枚	大橋清平→永瀬源作 ㄥ706匁5分	帳簿の断簡	
7	2	86	〔代銀算用書付〕	明治14年7月	1枚	辻平三郎 嶋縮・小格子など ㄥ176円18銭3厘 内118円50銭受取、他 差引 50円	帳簿の断簡	
7	2	87	記(代金書付)	未詳	1枚	晒3疋・大柄6疋の代銀など	帳簿の断簡	
7	2	88	〔代金書付〕	未詳	1枚	布小柄36反、布大柄3疋など ㄥ4貫134匁、他	帳簿の断簡	
7	2	89	〔代金算用書付〕	明治14年6月26日	1枚	越後金子桂吉・同常七→永瀬源作・同常八 ㄥ260円70銭	帳簿の断簡 (印)「エチゴカシワサキ 金 子」	
7	2	90	〔金銭書上〕	未詳	1枚	29日 334匁、9月朔日 133匁、他 金間利 4貫68匁、鉄之介取 69匁、円六取 300目、他	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり	
7	2	91	品価記	未詳	1枚	伊せ崎・嘉平治・糸織・岸など ㄥ247円92銭	帳簿の断簡	
7	2	92	〔差出人・宛名書付〕	明治15年1月8日	1枚	松居庄治郎→永瀬源作様御店中	帳簿の断簡 (印)「西京 蛸薬師通烏丸西 江入 松居庄治郎」	
7	2	93	記(代金書付)	未詳	1枚	黒白・吟鼠・白かべなど ㄥ1貫292匁	帳簿の断簡	
7	2	94	覚(代金書付)	明治14年9月5日	1枚	猪田新助→永瀬源之助 ㄥ6貫427匁6分9厘 他に、仕立文庫など	帳簿の断簡 (印)「京都室町通四条上ル 猪田新助」	
7	2	95	判書	年未詳1月9日	1枚	西羽善兵衛→永瀬源作 飯田嶋色物 1貫320匁、縮面 1貫400匁、他	帳簿の断簡	
7	2	96	〔記帳願〕	明治13年6月14日	1枚	ㄥ金137円80銭 指引20円残り	帳簿の断簡	
7	2	97	判書	年未詳1月8日	1枚	沢村芳兵衛→栄屋源作 朱子 240匁、銀鼠 249匁、他	帳簿の断簡	

7	2	98	〔代金書付〕	明治14年10月23日	1枚	松居庄治郎→永瀬源作御店衆中 嘉平治・郡内・伊せ崎など 107円59銭	帳簿の断簡 (印)「西京蛸薬師通烏丸西 江入 松居庄治郎」	
7	2	99	仕切書	明治10年9月7日	1枚	高山弥助→米屋源作 新浅黄・絹縮など 9貫702匁5分	帳簿断簡	
7	2	100	〔代金書付〕	年未詳9月1日	1枚	沢村芳兵衛→米屋源之助 紅鹿子 800匁、銀鼠鹿子 370匁、他 改8貫251匁5分	帳簿断簡	
7	2	101	仕切書	明治10年9月6日	1枚	松居庄治郎→堺屋源次郎・常八・御店中 金山・秩父・岸納戸など 40円97銭5厘、他	帳簿断簡 (印)「西京蛸薬師通烏丸西 二入 関東呉服口口織物 松 居庄治郎」	
8	1	1	手形	寅年2月23日	1通	江瀬市兵衛→下代類慶蔵 脂カ指金具作舞8銭10匁受取	上部破損	
8	1	2	〔銀子書付〕	未詳	1通	銀1貫761匁9分2厘、他		
8	1	3	〔御ふたり宛祖母書状〕	未詳	1通	万々、御めでたきこと。	前欠	
8	1	4	〔代銀書付〕	年未詳3月20日	1通	越後屋忠右衛門→橋右仲 豊後半切 14匁、ちり紙 3匁6分、他	前欠	
8	1	5	〔書状断簡〕	未詳	1枚	右仲様のよりは身も大きく…、反物に御仕立…、正蔵の身に合う ように致し…、黒の帯入用について、など		
8	1	6	口上	未詳	1通	軽微の至りではあるが、鶴1尾、酒1升(差し上げのことか)	後欠	
8	1	7	〔書き損じ書状〕	未詳	1通	6月22日の書状を拝見した。御船頭坂下専助・山下宅カ右衛門率 領を以て…		
8	1	8	〔追伸〕	未詳	1通	私の兄、御足軽吉作が罷り下るが、不法者なので御心添えを 頼むこと。		
8	1	9	口上	未詳	1枚	御健勝のこと	断簡	
8	1	10	〔右中宛祖母書状〕	年未詳正月4日	1枚		断簡	
8	1	11	〔銀子書付断簡〕	未詳	1枚	銀13貫78匁4分8厘、他		
8	1	12	〔受取覚〕	酉年7月10日	1枚	近江屋喜助→橋右仲	断簡	
8	1	13	〔書付覚〕	未詳	1枚	私共組合富田屋伊左衛門買請分御紙代銀20貫954匁4分7厘の ところ、伊左衛門不埒の儀申すことについて。	断簡	
8	1	14	薬種通	寛政13年	1枚	近江屋→橋右仲	表紙のみ	
8	1	15	〔免句書付〕	辛酉年	1枚	歳旦 巡り逢ふて社の顔の初日哉 他に題は「立春」・「歳暮」など	後欠	
8	1	16	〔銀子受取覚〕	酉年7月	1通	近江屋喜助→橋右仲 252匁9分、残243匁1分5厘 払い相済	前欠	
8	1	17	〔橋右仲宛書状〕	未詳	1通	年頭の御祝詞	破損甚し	
8	1	18	六月初御買分仕切覚	年未詳6月	1枚	唐大黃 21匁、甘草 11匁5分、折桂枝 11匁5分、他	帳簿の断簡	
8	1	19	〔右仲宛山太兵衛書状〕	年未詳6月18日	1通	栄八郎より大津駅にて、御小納戸役加番を仰せ付けられたと申し 越してきたこと。お久へもよろしく御伝へのこと。御小納戸本役木 田金之允、急に病氣につき出立致さずこと。	前欠、破損	
8	1	20	覚(薬種代書上)	未詳	1枚	唐大黃 21匁、十六附子18匁5分、甘草 11匁5分、他		
8	1	21	〔御内室参上についての書状〕	未詳	1通	内室が参られたが留守にっていて、土産や狂歌をいただいたこと について。お千久殿も腰いたみ、やいとを致していること。羽織の ことについて、他	前欠	
8	1	22	〔お久様御草臥についての書 状〕	未詳	1通	お久様、日々おひろい(お歩き)なされて御草臥のこと。	前欠、後欠	
8	1	23	〔近況についての書状〕	未詳	1通	御預りしていた文箱、今日お届けのこと。お久様、御気の毒のこ と。御あね様、御出くだされ安心のこと。正蔵は、ねつが出たこと。 元日は、私も両足が大いたみであったこと、他	前欠、後欠	
8	1	24	〔御〔ふ〕たり様宛祖母書状〕	未詳	1通	きのうは、貫力蔵が参り、御世話さまのこと。今日は見事なはずを 御持参くださったこと。銀子を御かし下されたことの御礼、他	後欠	
8	1	25	〔右仲宛書状〕	未詳	1通	傷寒論弁正代、京蔵様遠鏡代など都合120匁ばかり御取替のこ と。正蔵様、高円寺村、いつれへもよろしく、他。	後欠	
8	1	26	〔荒木田久老の万葉などに ついての書状〕	未詳	1通	大病であったが全快した。御便りがなかったが、土佐人はか様に 薄情ではないこと。去冬より宇治五十槻大人(荒木田久老)万葉 が大いにはやり、土佐人誰々、すくも(宿毛)人が追々出会った。 出府にて論弁もあり、御断申上げたく御面会致したいこと、他	前欠、後欠	
8	1	27	〔右仲宛大木屋太助書状〕	年未詳2月14日	1通	この節、紀州へ迎へられ参られる。この人にも、尊公様のことを嘸 しおいたので、御手透であれば御出掛けのこと。うひまなひ・古器 考・蔵山集など、この者へお越しのこと。	前欠・後欠	
8	1	28	〔薬種書付〕	未詳	1枚	折桂枝11匁5分、拾六附子 8匁8分、他	帳簿の断簡	
8	2	1	〔代金書付〕	未詳	1枚	上酒 15銭、他	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり	
8	2	2	〔金銭書付〕	未詳	1枚	20銭、40銭、他 相渡	帳簿の断簡	
8	2	3	〔受取覚〕	年未詳8月12日	1枚	万屋カ	帳簿の断簡	
8	2	4	〔代金書付〕	未詳	1枚	白砂糖 10銭、弁柄 5銭、煙草 13銭、他	帳簿の断簡	
8	2	5	〔代金書付〕	未詳	1枚	半し 2銭、砂糖代、他	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり	
8	2	6	〔代金書付〕	未詳	1枚	丸麩 3銭、ちり紙 10銭、他	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり	
8	2	7	〔代金書付〕	未詳	1枚	ぐち 2銭、さけ 6銭、他	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり	
8	2	8	〔代金書付〕	未詳	1枚	丸麩 4銭、3寸釘 30銭、他	帳簿の断簡	
8	2	9	〔代金書付〕	未詳	1枚	くし 4銭、上炭 38銭、他	帳簿の断簡	
8	2	10	〔代金算用〕	未詳	1枚	大筆・小筆など、合5円17銭1厘	帳簿の断簡	
8	2	11	酒御通	明治13年	1枚	栄蔵→丈八(抹消「米屋源作様」) 4月28日 ○、5月1日 ○、2日 ○、他	帳簿の表紙	
8	2	12	〔代金書付〕	未詳	1枚	さけ 16銭、さけ 7銭3厘、他	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり	
8	2	13	〔代金書付〕	未詳	1枚	さけ 12銭、さけ 3銭、他	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり	
8	2	14	〔代金書付〕	未詳	1枚	さけ5銭4厘、さば 3銭4厘、他	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり	
8	2	15	〔代金書付〕	未詳	1枚	さけ 6銭4厘、さけ 16銭9厘、他	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり	
8	2	16	〔代金書付〕	未詳	1枚	びん付 7銭、ふのり 2銭、他	帳簿の断簡	
8	2	17	〔代金書付〕	未詳	1枚	さけ 6銭4厘、かす 3銭、他	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり	
8	2	18	御通	〔明治〕15年	1枚	小引善五郎→永瀬源作	帳簿の表紙 破損 (印)「備前 磐梨松木 小松 屋」	
8	2	19	諸品御通	明治14年11月	1枚	万屋→永瀬源作	帳簿の表紙 (印)「備前 磐梨松木 万屋」	

8	2	20	〔代金書付〕	未詳	1枚	箱ひん付 6銭5厘、菓子 5銭、素麺 18銭、他	帳簿の断簡	
8	2	21	御通	辰年	1枚	永瀬宮次郎→永瀬源作 酒代書付	帳簿の表紙	
8	2	22	〔代金書付〕	未詳	1枚	チリ紙 4銭、茶子 5銭、石筆 2銭、他	帳簿の断簡	
8	2	23	〔代金書付〕	未詳	1枚	酒 19銭、油 11銭、さとう 16銭、他	帳簿の断簡	
8	2	24	〔代金書付〕	未詳	1枚	菓子 3銭、白砂糖 5銭、石筆9銭、他	帳簿の断簡	
8	2	25	〔代金書付〕	未詳	1枚	ひん付 6銭、炭 16銭5厘、こんにやく 3銭5厘、他	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり	
8	2	26	〔代金書付〕	未詳	1枚	砂糖 10銭、鯉節 12銭7厘、ほろろく 4銭5厘、他	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり	
8	2	27	〔代金書付〕	未詳	1枚	黒砂糖 3銭、ちり紙7銭5厘、煙草 20銭、他	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり	
8	2	28	〔代金書付〕	未詳	1枚	餐附 6銭、半し 2銭、餅麩 7銭5厘、他	帳簿の断簡	
8	2	29	〔代金書付〕	未詳	1枚	三つ折 6銭、白砂糖 10銭、ちり紙 10銭、他	帳簿の断簡	
8	2	30	〔代金受取〕	未詳	1枚	石ばん 5銭、そふめん 5銭、煙草 3銭、他 ¥7円41銭4厘 残り41銭4厘受取	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり	
8	2	31	〔代金書付〕	未詳	1枚	火口 2銭、ちり紙 7銭5厘、ひん付 11銭、他	帳簿の断簡	
8	2	32	〔代金書付〕	未詳	1枚	三つ折 6銭、くろさとふ 8銭、せん香 10銭、	帳簿の断簡	
8	2	33	〔代金書付〕	未詳	1枚	5寸釘 13銭、半し 10銭、大筆 3銭、他	帳簿の断簡	
8	2	34	〔代金書付〕	未詳	1枚	縄 28銭、白砂糖 5銭、豆腐 5銭、他	帳簿の断簡	
8	2	35	諸品御通	明治14年8月	1枚	万屋→永瀬源作	帳簿の表紙 破損 (印)「備前 磐梨 松木 万屋」	
8	2	36	〔代金書付〕	未詳	1枚	石炭油 9銭2厘、ふのり 2銭、数の子 4銭、他	帳簿の断簡	
8	2	37	〔代金書付〕	未詳	1枚	ところてん 3銭、手拭 7銭、丸ふ2銭7厘、他	帳簿の断簡	
8	2	38	〔代金書付〕	未詳	1枚	さけ 5銭6厘、さけ3銭2厘、他	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり	
8	2	39	〔代金受取〕	未詳	1枚	さつま1つ 1銭8厘 ¥11円74銭5厘受取	帳簿の断簡	
8	2	40	〔代金書付〕	辰年2月29日	1枚	炭 16銭5厘、小豆 11銭、丸麩 4銭5厘、他	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり	
8	2	41	〔代金書付〕	未詳	1枚	豆腐 4銭5厘、こんにやく 3銭5厘、5寸釘 20銭、他	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり	
8	2	42	〔代金書付〕	未詳	1枚	元結 4銭、箱 1銭4厘、半紙 2銭5厘、他	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり	
8	2	43	〔代金書付〕	未詳	1枚	煙草 13銭5厘、針金 10銭5厘、丸麩 3銭、他	帳簿の断簡	
8	2	44	〔代金書付〕	年未詳7月	1枚	七月登り売 金巾 3両2歩3朱、嶋八丈 5両2歩2朱 600文、他	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり	
8	2	45	〔代金算用〕	未詳	1枚	南部 174匁 ¥金17両3歩1朱 600文、他	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり	
8	2	46	〔代金算用〕	未詳	1枚	唐金巾 4両2朱、藤道具代、他 金36両2歩2朱、他	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり	
8	2	47	〔代金受取等書付〕	未詳	1枚	合108両1歩1朱、11月20日、内金27両受取、他 31両 かし、22両2歩 入、他	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり	
8	2	48	〔代金書付〕	未詳	1枚	九五五 南部2枚 191匁、百十一 同2枚 222匁、他	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり	
8	2	49	〔代金書付〕	年未詳12月	1枚	金巾 275匁、唐金巾 215匁、他	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり	
8	2	50	〔代金書付〕	未詳	1枚	結喜 3貫130匁2分、小倉 853匁、他	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり	
8	2	51	〔代金書付〕	辰年2月	1枚	辰二月登り 上州小倉 2両3歩1朱、岸上物 5両2歩、他	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり	
8	2	52	覚(代金算用)	明治10年8月7日	1通	内貴清兵衛→栄屋源之助 越前結城 1貫100目、綿南部 1貫225匁、無地郡内 1貫505匁、 他 ¥10貫205匁	(印)「京東洞院御池上ル 現 金正札付附仕入所 内貴清兵 衛」	
8	2	53	口演	未詳	1枚	諸代呂物高直につき、日限相違なく皆済御勘定下されたきこと。 備中舟尾村 福本屋良蔵 大坂安土町心齋橋東へ入 京屋久兵衛	帳簿の断簡 墨で抹消のしるしあり	